

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成21年3月26日

【事業年度】 第7期(自平成20年1月1日至平成20年12月31日)

【会社名】 株式会社paperboy&co.

【英訳名】 paperboy&co. Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 佐藤 健太郎

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区桜丘町26番1号

【電話番号】 03-5456-2622(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役兼経理財務部長 久保田 文之

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区桜丘町26番1号

【電話番号】 03-5456-2622(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役兼経理財務部長 久保田 文之

【縦覧に供する場所】 株式会社ジャスダック証券取引所
(東京都中央区日本橋茅場町一丁目5番8号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期
決算年月	平成16年10月	平成16年12月	平成17年12月	平成18年12月	平成19年12月	平成20年12月
売上高 (千円)	431,366	103,020	851,269	1,316,468	1,793,755	2,214,420
経常利益 (千円)	8,474	6,324	123,549	261,396	367,265	433,084
当期純利益 (千円)	2,311	5,684	72,881	153,750	202,832	238,599
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	74,453	74,453	74,453	74,453	74,453	118,153
発行済株式総数 (株)	255	255	255	255	25,500	1,325,000
純資産額 (千円)	141,555	147,240	220,121	337,326	470,952	707,702
総資産額 (千円)	283,892	299,110	590,732	901,789	1,274,076	1,734,081
1株当たり純資産額 (円)	555,119.99	577,412.96	848,907.25	1,322,849.76	18,468.72	534.11
1株当たり配当額 (円)	-	-	129,000	271,400	3,500	80
(内、1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益 (円)	9,065.20	22,292.97	271,494.28	602,942.51	7,954.22	186.86
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-	186.03
自己資本比率 (%)	49.9	49.2	37.3	37.4	37.0	40.8
自己資本利益率 (%)	3.2	3.9	39.7	55.2	50.2	40.5
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-	12.4
配当性向 (%)	-	-	47.5	45.0	44.0	42.8
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	-	-	307,857	400,454	494,659
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	-	-	42,358	79,411	60,796
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	-	-	32,895	69,207	14,630
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	-	-	-	612,648	864,483	1,283,715
従業員数 (名)	35	37	55	66	87	102
(外、平均臨時雇用者数)	(3)	(5)	(10)	(18)	(19)	(17)

- (注) 1 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、第2期まで消費税等が含まれておりますが、第3期以降は含まれておりません。
- 3 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。
- 4 第2期から第5期における潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。また、第6期における潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在しますが、当社株式は非上場であったため期中平均株価が把握できませんので記載しておりません。
- 5 第6期までの株価収益率は当社株式が非上場であったため、記載しておりません。
- 6 第4期までは、キャッシュ・フロー計算書を作成しておりませんので、キャッシュ・フローに係る各項目については記載しておりません。
- 7 当社は、平成16年12月20日開催の定時株主総会決議により、決算期を10月31日から12月31日に変更しております。従って、第3期は平成16年11月1日から平成16年12月31日までの2ヶ月間となっております。
- 8 当社は、第5期の財務諸表については、旧証券取引法第193条の2の規定に基づき、第6期及び第7期の財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、監査法人トーマツの監査を受けておりますが、第2期から第4期の財務諸表については、当該監査を受けておりません。
- 9 当社は平成19年3月29日付で1株につき100株の株式分割を行っております。また、平成20年6月21日付で株式1株につき50株の分割を行っております。当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の1株当たりの情報の推移を参考までに掲げると以下のとおりとなります。

回次	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期
決算年月	平成16年10月	平成16年12月	平成17年12月	平成18年12月	平成19年12月	平成20年12月
1株当たり純資産額 (円)	111.02	115.48	169.78	264.57	369.37	534.11
1株当たり当期純利益 (円)	1.81	4.46	54.30	120.59	159.08	186.86
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-	186.03
1株当たり配当額 (円)	-	-	25.80	54.28	70.00	80.00

2 【沿革】

提出会社は、平成13年10月福岡県福岡市中央区において個人向けレンタルサーバーの提供を目的として、現在の当社の前身である「合資会社マダム企画」を創業いたしました。

その後、事業拡大のため平成15年1月に有限会社paperboy & co. を設立し、合資会社マダム企画から「ロリポップ!」、「CGI CANDY BOX」の事業を移管しております。

設立以後の企業集団に係る経緯は、次のとおりであります。

年月	概要
平成15年1月	福岡県福岡市中央区に個人向けホスティング事業を事業目的とした、有限会社paperboy & co. を設立。
平成16年1月	合資会社マダム企画より「ロリポップ!」、「CGI CANDY BOX」の事業を移管。 「ロリポップ!」においてオンラインショッピングカート機能「Color Me Shop! mini」の提供を開始しEC支援事業へ参入。
2月	ドメイン取得代行サービス「ムームードメイン」提供開始。
3月	レンタルブログサービス「JUGEM」の提供を開始し、コミュニティ事業に参入。
	有限会社より株式会社へ組織変更。 グローバルメディアオンライン株式会社(現 GMOインターネット株式会社)を割当先とした第三者割当増資を実施し、同社の連結子会社となる。
5月	本社を東京都渋谷区に移転。
6月	ソーシャルネットワーキングサービス「キヌガサ」提供開始。
11月	ブログ・ニュースリーダー「PAIPO READER」提供開始。
平成17年2月	オンラインショップ構築ASPサービス「Color Me Shop! pro」提供開始。
5月	「プチ・ホームページサービス」の営業を譲受け、提供開始。
11月	クリエイター向けレンタルサーバー「ヘテムル」提供開始。
平成18年3月	コミュニティサイト構築ASPサービス「Grouptube」提供開始。
4月	オンラインショッピングモール「カラメル」提供開始。 中級者向けレンタルサーバー「チカッパ!」提供開始。 統合IDサービス「JugemKey」を導入。 携帯電話からの動画投稿ツール「3ミリ」提供開始。
10月	オンラインブックマークサービス「POOKMARK」提供開始。
平成20年4月	オンラインフォトアルバムサービス「30days Album」提供開始。 ライフログサービス「ログピ」提供開始。
平成20年12月	ジャスダック証券取引所ジャスダック市場に株式上場。

(注) 合資会社マダム企画における沿革は、以下のとおりです。

年月	概要
平成13年10月	福岡県福岡市中央区に個人向けレンタルサーバーを事業目的とした、合資会社マダム企画を設立。
11月	初心者向けレンタルサーバー「ロリポップ!」提供開始。
平成14年7月	本社を福岡県久留米市に移転。
11月	レンタル日記・掲示板サービス「CGI CANDY BOX」提供開始。
平成15年1月	有限会社paperboy & co. へ事業を移管。
平成16年2月	合資会社マダム企画を解散。

3 【事業の内容】

当社は親会社であるGMOインターネット株式会社を中心とした企業集団(以下、GMOインターネットグループ)に属しており、同社は本書提出日現在、当社発行済株式の57.4%を保有しております。GMOインターネットグループは、同社と連結子会社43社からなる企業集団であり「すべての人にインターネット」をコーポレートキャッチとして、インターネットのインフラサービスすなわち"場"の提供に経営資源を集中しております。

GMOインターネットグループの主な事業はインターネット活用支援事業(ネットインフラ事業)、インターネット集客支援事業(ネットメディア事業)とそれらに付帯する事業です。当社はGMOインターネットグループのうちインターネット活用支援事業とインターネット集客支援事業を主な事業として担っております。当社の事業のうち「ホスティング事業」「EC支援事業」の2事業がインターネット活用支援事業にあたり「コミュニティ事業」がインターネット集客支援事業にあたります。GMOインターネットグループの中では主に個人向けの低価格帯のサービスを担う会社として位置づけられております。

(1) 事業の内容について

当社は「もっとおもしろくできる」という経営理念のもと、「より多くの人に情報発信する喜びを提供する」ことを基本方針とし、自己表現や情報発信が実現できるツールとして、個人向けのインターネットサービスを利用しやすい価格で提供しております。現在当社は、ホスティング、EC支援、コミュニティの3事業を展開しており、各々の事業において以下のサービスを提供しております。

	サービス名称	サービス内容
ホスティング	ロリポップ!	初心者向けレンタルサーバー及びASPサービス
	チカッパ!	中級者向けレンタルサーバー及びASPサービス
	ヘテムル	クリエイター向けレンタルサーバー及びASPサービス
	プチ・ホームページサービス	ハイセンスなホームページ作成サービス
	ムームードメイン	ドメイン取得・活用サービス
	30days Album	オンラインフォトアルバムサービス
	CGI CANDY BOX	日記・掲示板等の無料レンタルサービス
EC支援	Color Me Shop! pro	オンラインショップ構築ASPサービス
	カラメル	オンラインショッピングモール
コミュニティ	JugemKey	統合IDサービス
	JUGEM	ブログの無料・有料レンタルサービス
	3ミリ	携帯電話からの動画投稿ツール
	POOKMARK	オンラインブックマークサービス
	ログピ	ライフログサービス
	Grouptube	SNS・コミュニティ構築ASPサービス
	キヌガサ	ソーシャルネットワーキングサービス

は、JugemKey対応サービス

ホスティング事業

ホスティング事業では、ウェブサイトやホームページを開設するためのサーバーや各種機能、ドメイン等を提供し、各サービスの利用料を主な売上としております。当社ではサーバーを提供するレンタルサーバーサービス、ドメインの取得や活用に関わるドメイン取得サービス、その他オンラインフォトアルバムや掲示板のレンタルサービスをホスティング事業と総称しております。

以下、ホスティング事業における主なサービスです。

a ロリポップ！

「ロリポップ！」は、主としてインターネット初心者ターゲットとしたレンタルサーバーで、現在23万件(平成20年12月末現在)以上の個人を中心とした顧客に利用されております。

敷居の高かったホスティングサービスをインターネット初心者でも気軽に使えるよう、「お小遣い」から支払える価格帯で提供し、個人がレンタルサーバーを利用するきっかけを作りました。初心者でも簡単にホームページを作成・運営できるよう豊富なマニュアルやレスポンスの早いカスタマーサポートを提供するほか、ホームページ作成のために必要なソフトウェアや各種ツールなどのASPサービス(注1)も提供しております。

b チカッパ！

「チカッパ！」は、主としてインターネット中級者向けに提供しております。1契約で複数のドメインを利用できる「マルチドメイン」機能や、セキュリティに配慮されたホームページが作れる「共有SSL(注2)」などの機能を標準装備しており、「ロリポップ！」に比べ、サーバー容量や機能が豊富なサービスです。

c ヘテムル

「ヘテムル」は、「We host your creativity.(あなたの創造性を支援します)」をサービスコンセプトとした、デザイナーやクリエイター向けのレンタルサーバーです。映像配信等に最適な「Flash Media Server」や、生産性の高い開発が可能となる「ColdFusion」など高度なウェブサイト構築が可能となる環境を整備しており、格納できるサーバー容量についても「ロリポップ！」や「チカッパ！」よりも多く、当社のレンタルサーバーの中では最も上位の機能を提供しております。

d プチ・ホームページサービス

「プチ・ホームページサービス」は、「紙のホームページ」をコンセプトに写真愛好家や主婦を中心に支持されております。デザイン性を重視したホームページサービスで、日記帳やスケッチブックに日記を付ける感覚でホームページが作成できます。子供の成長日記や、写真アルバムとしての利用など、「ロリポップ！」や「チカッパ！」「ヘテムル」よりもニーズのはっきりしたホームページ作成サービスとして利用されております。

e ムームードメイン

「ムームードメイン」は、サービス提供当初からドメインの取得がオンライン上で簡単に行えるシステムを導入し、ドメインの登録は書類での申請が必要で「手間がかかる」というそれまでのイメージを取り除き、個人によるドメイン取得の敷居を下げました。取得されたドメインの半数以上は「ロリポップ!」や「チカッパ!」など当社のレンタルサーバーを利用しており、平成20年5月より当社のサービスを1つのドメインで利用できる「ムームーDNS」機能も提供しております。

EC支援事業

当社のEC支援事業は、電子商取引(EC)の運営を支援するオンラインショップ構築サービスと、オンラインショッピングモールを提供しており、サービスの利用料金が主な売上となります。当社のオンラインショップ構築サービスは、「ロリポップ!」の会員を対象に無料のオプションサービスとして提供していた「Color Me Shop! mini」の機能を拡張した有料サービスである「Color Me Shop! pro」と、「Color Me Shop! pro」を利用して運営しているオンラインショップを対象としたオンラインショッピングモール「カラメル」を提供しております。

以下、EC支援事業における主なサービスです。

a Color Me Shop! pro

「Color Me Shop! pro」は、オンラインショップ運営が初めての方でもブログ(注3)を作成する感覚で簡単に開店できるシステムを提供しており、現在19,000件(平成20年12月末現在)以上のオンラインショップが開店しております。また、デザインや機能は細かくカスタマイズすることができるため、初心者ばかりでなくデザインにこだわる上級者にも多く利用されております。小規模な小売店を営む方や、フリーマーケットに参加する感覚でオンラインショップを開店される方が多く、ビーズアクセサリーや自主制作のCDの販売など、自己表現の場としても活用されております。

b カラメル

「カラメル」は、「Color Me Shop! pro」を利用してオンラインショップが出店可能なショッピングモールです。地図検索や色検索などの特徴的な検索システムを提供するとともに、定期的特集記事などで商品を紹介し、様々な切り口からショップや商品に顧客を誘導する仕組みを提供しております。

コミュニティ事業

コミュニティ事業は、ブログやSNS(注4)など比較的新しいインターネットサービスを提供しており、無料サービスについては広告掲載料、有料サービスについては利用料金やシステムのライセンスフィーが主な売上となっております。コミュニティ事業のサービスは、統合IDサービス「JugemKey」によって各サービスにおける会員登録の手間を排除し、ユーザーが参加しやすい環境を提供しております。

以下、コミュニティ事業における主なサービスです。

a JUGEM

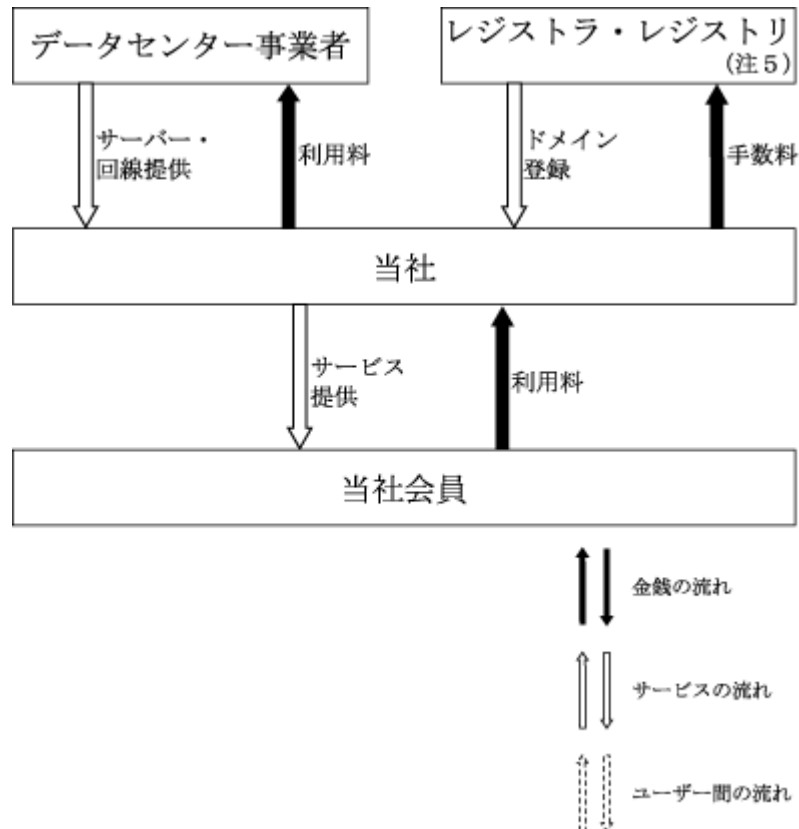
「JUGEM」は、デザイン性の高さ使いやすいインターフェイスを強みとしており、現在約80万人(平成20年12月末現在)に利用されております。ユーザーが独自のデザインテンプレートを公開・共有できる「User Template File」や絵文字の作成・共有ができる「PICTO」などのユーザー参加型コンテンツが、高い支持を得ております。現在ではブログの中に広告が掲載される無料版と、広告が掲載されず無料版の機能を拡張した有料版を提供しております。

b Grouptube

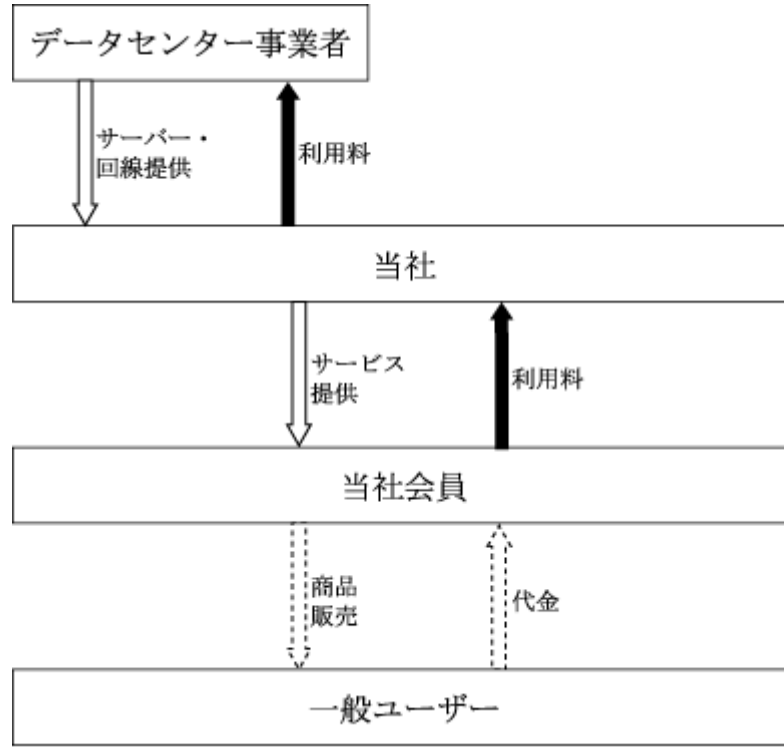
「Grouptube」は、無料SNSサービス「キヌガサ」の提供で蓄積されたノウハウをもとに、誰でも簡単にSNSやコミュニティサイトを作れる構築支援サービスとして提供しております。サークルや同窓会におけるメンバーとのコミュニケーションツールとしての利用や、組織における社内SNSとして活用されております。

以上に述べた事項の事業系統図は次のとおりです。

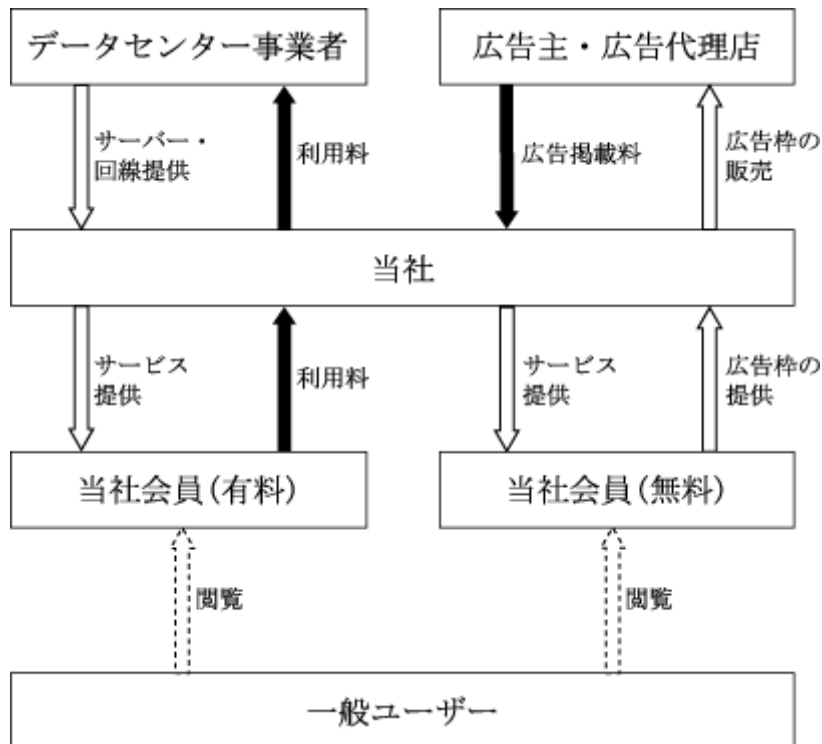
ホスティング事業



EC支援事業



コミュニティ事業



- (注) 1 ASPサービスとは、インターネットを通じて利用できるソフトウェア・アプリケーションであります。
 2 SSLとは、インターネット上の情報を暗号化し送受信するための、通信技術の呼称であります。
 3 ブログとは、日記やエッセイのような形式で記録されるホームページの一種であります。
 4 SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)とは、自分のプロフィールを公開し、友人知人や趣味嗜好が近い人と人間関係を構築するための、会員制サービスの呼称です。
 5 レジストリとは、ドメインの登録受付業務を行う組織で一つのドメインの種類に対して一つのレジストリが存在します。また、レジストラとは、レジストリへの登録申請を代理仲介する組織のことです。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (被所有)割合 (%)	関係内容
(親会社) GMOインターネット㈱ (注1)	東京都渋谷区	1,276,834	インターネット 活用支援事 業等	(被所有) 直接 57.4	・役務の提供、受入 ・東京本社賃借取引等 ・役員の兼任3名

(注) 1 GMOインターネット株式会社は、有価証券報告書の提出会社です。

5 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成20年12月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
102(17)	30.7	2.5	4,598

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。
 2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
 3 平均年間給与は、基準外賃金を含んでおります。
 4 最近1年間において従業員が15名増加しておりますが、この増加の大部分は既存サービス規模の拡大に伴う増員によるものです。

(2) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当事業年度におけるわが国の経済は、米国発の金融危機による世界的な経済の減速を受け、企業収益の悪化や個人消費が低迷し、景気後退の波が加速している状況にあります。

当社が属する個人向けインターネットサービス市場においては、モバイル関連サービスの利用者が拡大する一方で、インターネット接続環境の多様化に伴った新しい情報発信サービスなども広がりをみせております。

このような事業環境の中、当社は複数のサービスの支払いが一括でできる「おさいぼ!」、1つのドメインで複数のサービスが利用できる「ムームーDNS」の提供を開始するなど、クロスセルを目的とした新機能や新サービスの開発・提供を行ってまいりました。また、各サービスでのスペックや機能を強化し、新規顧客の拡大を図っております。そのほか、オンラインフォトアルバムサービス「30days Album」、ライフログサービス「ログピ」など、新サービスへの取り組みも行ってまいりました。

この結果、当事業年度の売上高は2,214,420千円(前年同期比23.5%増)、営業利益は458,336千円(前年同期比25.4%増)、経常利益は433,084千円(前年同期比17.9%増)で当期純利益は238,599千円(前年同期比17.6%増)となりました。

(事業部門別の状況)

ホスティング事業

ホスティング事業におきましては、サービスの機能拡充やキャンペーンの積極的な展開をはじめ、前述の「おさいぼ!」「ムームーDNS」の導入による顧客の利便性向上を行ったことにより、レンタルサーバーサービスにおいて契約数が約26,000件増加し約267,000件、ドメインサービスにおいて登録ドメインが約83,000件増加し約402,000件となりました。

この結果、当事業年度におけるホスティング事業の売上高は1,794,253千円(前年同期比21.6%増)となりました。

EC支援事業

EC支援事業におきましては、集客支援や決済支援等による店舗運営の支援強化やサービス内容の拡充を行い「Color Me Shop! pro」のショップ数は約5,000件増加し約19,000件となりました。また、「カラメル」では、サイトデザインのリニューアルやポイントサービスへの対応を行ったことで、登録ショップ数は約4,000件増加し約8,000件となりました。

この結果、当事業年度におけるEC支援事業の売上高は281,274千円(前年同期比59.9%増)となりました。

コミュニティ事業

コミュニティ事業におきましては、1行のコメントを投稿してその時の行動を記録するライフログサービス「ログピ」の開始や「JUGEM」におけるモバイル機能の強化など、「JugemKey ID」に対応したサービスの拡充を図り「JugemKey ID」数は386,000件増加し、約1,158,000件となりましたが、広告単価が下落したことで売上高が当初計画に届いておりません。

この結果、当事業年度におけるコミュニティ事業の売上高は138,891千円(前年同期比1.3%減)とな

りました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当事業年度末における現金及び現金同等物は、1,283,715千円と前年同期と比べ419,231千円の増加となりました。各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた現金及び現金同等物は、494,659千円(前年同期比23.5%増)となりました。これは主に、有料会員数等の増加等に伴う売上債権の増加による29,405千円の減少、前事業年度に係る法人税等の支払による183,192千円の減少、有料会員数増加に伴う前受金等の増加による197,123千円の増加や税引前当期純利益407,903千円の計上によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した現金及び現金同等物は、60,796千円(前年同期比23.4%減)となりました。これは主に、自社利用サービスのソフトウェア開発投資など無形固定資産の取得に関する支出が31,123千円、サービス用サーバー投資など有形固定資産の取得に関する支出が30,043千円あったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した現金及び現金同等物は、14,630千円(前年同期比78.9%減)となりました。これは、前事業年度の配当金の支払いによる支出が89,250千円、また新規上場時の株式発行による収入が87,400千円あったことによるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当社は、インターネットを利用したホスティング事業、EC支援事業、コミュニティ事業の提供を行っており、生産に該当する事項がありませんので、生産実績に関する記載はしていません。

(2) 受注実績

当社では概ね受注から役務提供開始までの期間が短いため、受注状況に関する記載を省略しております。

(3) 販売実績

当事業年度における販売実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門	当事業年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)	
	販売高(千円)	前年同期比(%)
ホスティング事業	1,794,253	121.6
EC支援事業	281,274	159.9
コミュニティ事業	138,891	98.7
合計	2,214,420	123.5

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当社では前身となる合資会社マダメ企画の設立以来、「ロリポップ！」をはじめとするホスティング事業を中心に事業を展開してまいりました。収益基盤の多角化を目的に、平成16年1月「Color Me Shop! mini」でEC支援事業に、同年2月「JUGEM」でコミュニティ事業に進出しております。ホスティング事業とあわせた3つの事業ドメインを確固たるものとするために、「より多くの人に情報発信する喜びを提供する」というミッションのもと、既存事業の基盤強化と更なる新規事業の展開をすべく、人材育成や組織体制の整備に力を注いでまいります。

(1) 既存事業の基盤強化

ホスティング事業においては、サービス開始当初と比べ、競合サービスも増加しており、さらなる競争力強化として、基本性能・スペックの向上を図ってまいります。EC支援事業では、平成18年4月に開始した「カラメル」によるオンラインショッピングモールのブランド強化を行い、好調に推移している「Color Me Shop! pro」との相乗効果を図ってまいります。コミュニティ事業では、「JUGEM」のメディアとしての強化を目標に、有料版のブログ提供と広告による収益構造の構築に取り組んでまいります。

(2) 既存サービスに対する継続的な機能追加と新規サービスの投入

これまで「ロリポップ！」や「JUGEM」において、ユーザーからの要望を基にした継続的な新機能追加によって競争優位性を保ってまいりました。今後も他社との競争激化が予想される中、ユーザビリティの向上やデザインのリニューアル等も含めた継続的な改善サイクルを定着させてまいります。また、新規サービスにおきましても、既存事業とのシナジー効果を考えて取捨選択してまいります。

(3) 人材の育成及び確保

当社の置かれた市場環境においては、特に技術者の人材流動性が高く、どれだけ優秀な人材を確保し、またその能力が発揮されるかが最大の重要事項といえます。そこで当社では「ペパ研」「お産合宿」等の制度を活用し、アイデアの具現化に自由度の高い環境を従業員に対して提供しております。こうして人材獲得競争力を確保し、知識や経験の共有を行うことで、市場の技術革新にキャッチアップし、さらには先んじることが可能になると考えております。

(4) 組織体制の整備

当社は既存事業の急速な成長と拡大、積極的な新規事業への投資を行いながら継続的な企業価値向上を図るため、組織体制についても継続的な改善を加え規模や状況に応じた体制構築を行ってまいります。

4 【事業等のリスク】

当社の業績は、今後起こりうる様々な要因により大きな影響を受ける可能性があります。以下において、当社の事業展開上のリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。当社ではこれらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針ですが、当社の株式に関する投資判断は以下の事業等のリスク及び本項以外の記載事項を慎重に検討した上で行われる必要があると考えております。

本項においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は本書提出日現在における当社の判断に基づいたものであり、不確実性を内在しているため、実際の結果と異なる可能性があります。

(1) GMOインターネットグループとの関係について

当社は親会社であるGMOインターネット株式会社を中心とした連結子会社43社からなる企業集団(以下、GMOインターネットグループ)に属しており、同社は本書提出日現在当社発行済株式の57.4%を保有しております。

当社は独立性、自主性に基づき企業運営を行っておりますが、GMOインターネットグループ各社の当社に対する基本方針等に変更が生じた場合には、当社の事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

GMOインターネットグループとの取引内容

GMOインターネットグループとの取引については、取引条件の経済合理性を保つため定期的に契約の見直しを行っており、今後発生する新規取引等につきましても、市場原理に基づいて、GMOインターネットグループとの取引の是非を判断してまいります。なお、GMOインターネットグループ各社の当社に対する取引方針や条件等に大きな変更が生じた場合や、取引が困難となった際の代替事業者の確保に時間を要した場合等には、当社の事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

当事業年度(自平成20年1月1日至平成20年12月31日)における当社とGMOインターネットグループとの資金移動を伴う取引内容は以下のとおりであります。なお、重要性に鑑みて、1千万円未満のGMOインターネットグループとの資金移動を伴う取引内容に関しては、省略しております。

属性	会社等の名称	住所	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上の 関係				
親会社	GMOインターネット(株)	東京都渋谷区	1,276,834	インターネット活用 支援事業等	(被所有) 直接 57.4	兼任3名	貸借取引 その他役 務の受入 等	家賃の支払 (注2(1))	46,444	前払費用	4,170
								ドメイン登録 料の支払 (注2(2))	284,461	営業 未払金	25,871
									79	未払金	6
								データセン ター利用料の 支払(注2 (4))	27,784	営業 未払金	3,082
							メディア広告 の販売 (注2(3))	106,121	売掛金	11,660	
親会社 の子会社	GMOホスティング&セキュリティ(株)	東京都渋谷区	906,050	インター ネットソ リューション 開発運用 事業	-	兼任2名	役務の受 入、役務の 提供	サーバー利用 料等の支払 (注2(4))	51,155	営業 未払金	4,059
									1,176	未払金	102
親会社 の子会社	GMOペイメント ゲート ウェイ(株)	東京都渋谷区	655,241	クレジット カード決済 処理サー ビス事業	-	兼任2名	役務の受 入	決済代行サー ビスの利用 (注2(2))	39,675	未払金	6,358
									-	売掛金	134,815
									262	前払費用	230
									長期前払 費用	306	
親会社 の子会社	イブシロン (株)	東京都渋谷区	98,000	クレジット カード決済 処理サー ビス事業	-	-	販売取次	顧客紹介料の 受取 (注2(4))	12,529	売掛金	1,539
親会社 の子会社	(株)NIKKO	東京都渋谷区	140,000	広告代理事 業	-	兼任2名	広告出稿 委託	広告管理料の 支払(注2 (4))	14,512	未払金	1,550

- (注) 1 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりませんが、期末残高には消費税等が含まれております。
- 2 取引条件及び取引条件の決定方針等
- (1) 同社における一括負担額のうち、当社使用分の実費相当額となっております。
 - (2) 同社と関連を有しない会社との取引と同様に、取引規模等を総合的に勘案し交渉の上決定しております。なお、GMOペイメントゲートウェイ(株)との売掛金に関する取引については、同社に対する販売額はございませんので、取引金額は記載しておりません。
 - (3) 同社とのメディア広告の販売に関する業務委託契約書に基づく取引であり、取引条件に関しては、当社の役務提供の価値と広告収入の成果等を総合的に勘案し、交渉の上決定しております。
 - (4) 市場価格を参考にして一般取引条件と同様に決定しております。

GMOインターネットグループとの人的関係について

本書提出日現在における当社の取締役8名のうち2名、当社社外取締役である熊谷正寿及び渡邊直哉はそれぞれGMOインターネット株式会社の代表取締役会長兼社長、グループ代表室長であります。その豊富な経験をもとに当社の事業に関する助言を得ることを目的として招聘しております。また、本書提出日現在における当社の監査役3名のうち1名、当社社外監査役である安田昌史はGMOインターネット株式会社の専務取締役であります。その豊富な経験をもとにコーポレート・ガバナンスの強化を図ることを目的として招聘しております。

上記3名の主なGMOインターネットグループにおける役職は以下のとおりであります。

当社における役職	役員名	主なGMOインターネットグループにおける役職
取締役会長 (非常勤)	熊谷正寿	GMOインターネット株式会社 代表取締役会長兼社長 GMOホスティング&セキュリティ株式会社 取締役会長 GMOペイメントゲートウェイ株式会社 取締役会長 GMOアドパートナーズ株式会社 取締役会長
取締役 (非常勤)	渡邊直哉	GMOインターネット株式会社 グループ代表室長
監査役 (非常勤)	安田昌史	GMOインターネット株式会社 専務取締役 GMOホスティング&セキュリティ株式会社 取締役 GMOペイメントゲートウェイ株式会社 監査役 GMOアドパートナーズ株式会社 取締役

GMOインターネットグループとの事業の棲み分けについて

GMOインターネットグループの主な事業はインターネット活用支援事業(ネットインフラ事業)、インターネット集客支援事業(ネットメディア事業)とそれらに付随する事業です。

そのなかで、グループ企業数社と当社におきましては、サービス形態が一部類似しておりますが、当社は個人をターゲットに自己表現やコミュニケーションなど創作活動や趣味のための低価格で娯楽性のあるサービスを提供しているのに対し、当社以外のグループ企業におきましては中小企業をターゲットにインターネットを通じたビジネス展開や企業情報の発信のための高性能で多機能なサービスを提供しているため、ターゲット・価格帯・基本性能が異なることから、事業の棲み分けがなされております。

(2) 事業内容について

インターネット利用環境について

当社はホスティング事業、EC支援事業、コミュニティ事業と、それぞれインターネット関連事業を主たる事業対象としているため、インターネットの更なる普及及び利用拡大が当社事業の成長のための基本的な前提条件と考えております。これまでのところ日本国内におけるインターネット利用人口は着実に増加しており、総務省の平成19年「通信利用動向調査」によりますと、平成19年末における日本国内のインターネット利用者数は8,811万人、人口普及率は69.0%となり、前年末の8,754万人、68.5%から着実に増加しております。また、世帯のブロードバンド普及率も66%を超えており、より一層の高速通信回線の浸透が見込まれます。

しかしながら、インターネットの普及に伴う弊害の発生や利用に関する新たな規制その他予期せぬ

要因によって、今後インターネットの普及が阻害されるような状況が生じた場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

特定事業への依存リスク

当社の主力事業はホスティング事業であり、その売上高の構成比は当事業年度で81.0%となっております。今後はEC支援事業、コミュニティ事業に係る売上高の増加によりホスティング事業に係る売上高の構成比は低下していくと想定しております。しかしながら想定どおりに減少することは保証できず、継続してホスティング事業への依存が継続する可能性があります。このため後述する競合状況の激化や法的規制の変化などによりホスティング事業の業績が悪化した場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

競合と市場状況について

a ホスティング事業

ホスティング事業の事業領域である、個人向けレンタルサーバー、ドメインの分野においては利用者ニーズの多角化、高度化も含めた市場規模の拡大が今後も進むと考えておりますが、代替となるサービスの発生や、無料ブログ等レンタルサーバー以外の形態によるインターネット利用の拡大等が発生した場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

また、同事業領域は参入障壁が低く、多数の同業他社が存在しております。そのような中において、「ロリポップ!」は個人向けのレンタルサーバーサービスで国内最大級の位置にあると認識しておりますが、昨今、「ロリポップ!」と同価格帯のサービスも多数立ち上がっており、激しい競争状態にあります。その対策として、ターゲット、価格帯を変えた複数のサービスブランドを展開しており、それらをあわせて総合的にシェアを拡大していく戦略をとっております。しかしながら今後の技術開発競争、価格競争や新規参入により更なる競争の激化が発生した場合や、「ロリポップ!」以外のブランドが軌道に乗らない場合等の事象が発生することにより、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

b EC支援事業

EC支援事業の事業領域である電子商取引の分野においては、インターネットの普及に伴い爆発的な市場規模の拡大を続けております。当社では今後も電子商取引の市場分野が拡大することを想定しており、販売する側も大企業から中小企業、零細企業から個人へと裾野を広げると考えております。しかしながら電子商取引を取り巻く法規制や、トラブル等により、当社の期待どおりに電子商取引の市場が発展しない場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

EC市場が発展した場合にも、当社より先行してサービス展開を行っている競合他社若しくは新規参入業者に技術開発競争、価格競争、ブランドにおいて優位性を保てない場合には、当社のEC支援事業が市場規模と同様のペースでは発展しない可能性があります。

c コミュニティ事業

ブログ、SNS等の普及に伴うインターネット広告市場の拡大は急速に進み、テレビ、新聞、雑誌に次ぐ広告媒体へと成長しており、今後も当該市場は拡大していくものと予想されますが、当社のコミュニティ事業の主たる収益はインターネット広告枠の販売による広告収入であるため、当該市場の成長そのものの鈍化や、他の広告媒体との競合状況等の影響により、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

また、コミュニティ事業の分野においてもホスティング事業と同様に参入障壁が低く、ブログやSNS等の分野において新しいサービスが多数展開されており激しい競争状態にあります。また当社のコミュニティ事業においては広告収益以外のビジネスモデルが確立されていないため、平成18年3月に開始した「Grouptube」など収益の多角化を目指しております。しかしながら、今後よりいっそう競争が激しくなることが予想される同分野において競合他社に対する優位性を確保できない場合や「Grouptube」の収益が想定を下回る場合、アクセス増に伴うサーバー負荷増大により維持コスト

が高くなる場合等の事象が発生することにより、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

広告の掲載基準について

「JUGEM」等のサービスに掲載されるインターネット広告においては、広告代理店及び当社において独自の広告掲載基準を設けており、法令や公序良俗に反したインターネット広告の排除に努めております。しかしながら、何らかの要因により当社が掲載したインターネット広告に問題があった場合には、顧客や閲覧者からのクレームが発生する可能性は否定できず、当社の提供するサービスへの信用低下やブランドイメージの毀損などにより当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

技術革新について

当社の事業領域においては日夜急激な技術革新や新しいサービスが登場しているとともに、顧客ニーズの変化の速さも特徴とされております。当社では常にそれらに対応し、新しいサービスの提供や、顧客ニーズの変化・拡大に伴うサービスの拡張を行うために、積極的な技術開発を行っております。しかしながら、技術革新への対応が遅れた場合や、当社が想定しない新サービスの普及などにより当社の提供するサービスが陳腐化した場合には、競合他社に対する競争力が低下する可能性があります。また、新しい技術やサービスに対応するために必要な費用負担が想定を超えてしまう場合もあります。このような事態が生じた場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

システムトラブルについて

当社の事業においては、24時間365日安定したサービスを提供する必要がありますが、当社のサービスを構成しているプログラム及びシステムは通信ネットワークに依存しております。サービスのシステム監視体制やバックアップなどの対応策をとっておりますが、災害や事故等の発生により通信ネットワークが切断された場合や急激なアクセスの増大によりサービスの稼働するサーバーが一時的に作動不能となった場合、サーバーソフトウェアに不具合が発生した場合等の理由により、安定したサービスが提供できなくなる可能性があります。この場合、返金等の直接的な損害が生じる可能性があるほか信用低下やブランドイメージの毀損などにより当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

外注先について

当社の運営するサービスにおいては、サーバー及びサーバーを設置するラックを外注先に依存しております。この外注先は、入退室時の情報管理等の管理体制が整備され防災措置・安全対策等を行っているデータセンターを運営する、信頼性の高い外注先に限定しております。

しかしながら、予期せぬ自然災害や不法行為などが生じ、当該外注先の役務提供の遅れや提供不能などの事態が生じた場合には、当社もサービスの提供が遅れまたは提供ができなくなり、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

また、外注先の経営悪化等により予期せぬ取引の解消が生じた場合には、サーバーの撤去費用または他のデータセンターへの移転費用が予算を超えて計上されることとなり、当社の業績に影響を与える可能性があります。

なお、主な外注先は、GMOホスティング&セキュリティ株式会社、さくらインターネット株式会社であります。

(3) 法的規制等について

法的規制について

a 電気通信事業法

当社は電気通信事業者として総務省へ届出を行い、事業者番号はA-16-6544となっており、通信の秘密等の義務を課せられております。当社はこの義務を守るため、通信設備のセキュリティレベルを高めるとともに、従業員に対する教育を行う等の施策をとっておりますが、万が一当社が総務大臣から業務改善等の命令を受け、または罰則の適用を受けるような事態が生じた場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

b 特定電気通信役務提供者の損害賠償責任の制限及び発信者情報の開示に関する法律(プロバイダ責任制限法)

当社は特定電気通信役務提供者に該当し、「特定電気通信役務提供者の損害賠償責任の制限及び発信者情報の開示に関する法律」の適用を受けております。同法は、特定電気通信役務提供者の責任範囲に一定の限定を加え、発信者情報の開示請求等について規定しております。発信者情報の開示請求等に対して誤って開示した場合に損害賠償請求等を受けるおそれがあるため、情報開示の判断をする場合には慎重に検討を行っております。しかしながら、万が一この判断が適切でない場合に利用者もしくはその他の関係者、行政機関等から行政指導、クレーム、損害賠償請求等を受ける可能性があります。かかる場合には当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

c 不正アクセス行為の禁止等に関する法律(不正アクセス禁止法)

「不正アクセス行為の禁止等に関する法律」においては他人のID、パスワードの無断使用の禁止が定められており、アクセス管理者はアクセス制御機能が有効に動作するために必要な措置を講ずるよう努めること、とされております。当社もこの法の趣旨に則り、必要な措置を講ずるよう努めておりますが、今後、アクセス管理者が必要な措置を講ずることについて、より重い法的義務を課すように法令の改正がなされた場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

d その他

現在もインターネット及び電子商取引を取り巻く法的規制は議論がなされている状態であり、今後、インターネット利用や関連するサービス及び事業者を規制対象とする法令等が制定された場合や、既存の法令等の適用解釈が明確になった場合に、迅速に対応できるよう常に情報収集に努めております。しかしながら、新たに制定された法令等に対応するためのコスト負担が重く、対応困難となるような場合には、当社の事業が制約を受ける可能性があります。

サービス利用者の違法行為について

当社の運営するサービス上において、出店者、購入者が法禁物の取引を行うこと、詐欺などの違法行為を行うこと、他人の所有権、知的財産権、プライバシー権などの権利を侵害する行為を行うこと、法令や公序良俗に反するコンテンツの設置を行うことなどの危険性が存在しております。かかる事態が生じることを防止すべく、当社のカスタマーサポートが随時、利用規約に基づく警告・違法情報の削除などを行っております。しかしながら、万が一、かかる事態が生じることを事前に防止することができなかった場合には、問題となる行為を行った当事者だけでなく、当社についても取引・表現の場を提供管理する者として責任追及がなされるおそれがあり、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

また、当社サービスの利用者が違法行為を行った場合において、警察や裁判所等の公的機関に対して、捜査協力としてサーバーに残されたデータやログ・ファイルを提出することがあります。現在では多くの場合、CD-R等の情報媒体にサーバーからデータを複製して提出しておりますが、サーバーやハードディスクそのものの提出が必要とされた場合や今後法的規制が強化され、該当する設備が全て差し押さえされるようなことになった場合には、サーバーの利用ができなくなり、サービスの提供が中断する可能性があります。この場合には当社の企業イメージが傷つく可能性や、他の顧客からの損害賠償請求が生じる可能性があります。当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

情報管理と情報漏洩について

当社は「個人情報の保護に関する法律」において、個人情報取扱事業者としての義務を課されております。当社では個人情報を取り扱う役職員を限定し、個人情報へのアクセスにあたってはパスワード管理を行い、個人情報へのアクセスをログ管理する等、プログラム、運用両面から厳格な情報管理を継続して行う社内体制を構築しており、今後もよりいっそうの体制強化を図っていく予定です。また個人情報の格納されているサーバーについても24時間のセキュリティ管理のあるデータセンターで厳重に管理されております。しかしながら、個人情報の流出等の重大なトラブルが発生した場合には、当社への損害賠償請求や当社に対する信用の低下により、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

(4) 知的財産権について

当社保有の知的財産権について

当社では「paperboy&co.」「ロリポップ!」「ムームードメイン」「JUGEM」等の各サイト、サービス名について商標登録を行っており、各サービスの商標出願は積極的に行っております。今後も知的財産権の保全に積極的に取り組む予定ですが、当社の知的財産権が第三者に侵害された場合には、解決のために多くの時間や費用がかかるなど、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

当社による第三者の知的財産権侵害について

当社による第三者の知的財産権の侵害については可能な範囲で調査を行い対応を行っておりますが、当社の事業領域における第三者の知的財産権を完全に把握することは困難であり、当社の事業領域において第三者の知的財産権が確立している可能性や第三者の特許が成立する可能性は否定できません。この場合には当社に対する損害賠償請求や、ロイヤリティの支払要求等が行われることにより、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

ドメイン紛争について

当社ではドメインサービスにおいて、Whois情報代理公開というサービスを行っております。これは顧客の個人情報をWhois情報としてインターネット上に公開する代わりに当社情報をWhois情報として公開するものであり、これにより多くの個人顧客が個人情報開示の心配なくドメインを利用することが可能になっております。この場合にWhois情報代理公開を利用した特定ドメインに対し、第三者から商標権の侵害等の通知を当社が受けることがあります。通常は本来の顧客に対して連絡を行い、Whois情報代理公開を中止し、当事者間で紛争の解決をはかることを想定しております。しかしながら顧客に連絡がつかない場合等に、当社を当事者としてドメイン使用の差止請求、損害賠償請求等の要求が生じる可能性があります。このような事態が生じた場合には、解決のために多くの時間や費用がかかる等、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

(注) Whoisとは、IPアドレスやドメイン名の登録者などに関する情報を、インターネットユーザーが誰でも参照できるサービスです。

(5) 当社の事業体制に関するリスク

人的資源及び内部管理体制について

当社は未だ業歴が浅く成長途上であるため、今後の事業の急速な拡大に応じて、適宜人員の採用育成を行い、内部管理体制の強化を図る必要があります。しかしながら人材の採用育成が順調に進まず、事業規模に応じた内部管理体制の構築に遅れが生じた場合には当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。また、開発者等の人材においても採用育成が順調に進まない場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

小規模組織であることについて

当社は本書提出日現在、取締役8名(内、非常勤3名)、監査役3名(内、非常勤2名)、従業員102名と小規模な組織であり、内部管理体制もこれに応じたものになっております。また、小規模な組織であるため、業務を特定の個人に依存している場合があります。今後、さらなる権限の委譲や業務の定型化、代替人員の確保などを行う予定ですが、特定の役職員の社外流出などにより、一時的に当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

業歴及び業界の歴史が浅いことについて

当社はホスティング事業を主たる事業として平成15年1月に設立され、平成16年1月にEC支援事業、平成16年2月にコミュニティ事業を開始しておりますが、それぞれ事業の業歴が浅く、また、決算期変更に伴い第3期が2ヶ月間となっているため、期間業績比較を行うために十分な財務数値を得られず、当社の過年度の経営成績だけでは、今後当社が継続的に売上高を増加させ、安定的に利益を確保できるかどうかの判断材料としては不十分な面があります。また、当社の属するインターネット業界の歴史は浅いため事業環境が短期間に変動する可能性があり、当社が対応しきれない場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

(6) その他

ソフトウェア会計について

当社が開発するソフトウェアにおいては、開発に要した労務費等を費用計上せず、投資としてソフトウェア又はソフトウェア仮勘定に計上することがあります。精緻な事業計画に基づき積極的に開発を行っておりますが、ソフトウェア資産の回収可能性については見積り特有の不確実性があるため、追加的な減価償却費又は損失が発生する可能性があります。この場合には、当社の業績に影響を与える可能性があります。

新株予約権の行使による株式価値の希薄化について

当社は、業績向上に対する意欲や士気を高めることを目的としてストック・オプション制度を導入しており、平成19年5月14日開催の臨時株主総会において、会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づく新株予約権の割当に関する特別決議を行い、当社の役員及び従業員に対し、当該新株予約権を付与しております。本書提出日現在、新株予約権の目的となる株式数は40,000株であり、発行済株式総数1,325,000株の3.02%に相当しております。今後、これらの新株予約権が行使された場合には、当社の1株当たりの株式価値が希薄化することになり、株式市場での需給バランスに変動が発生し、株価への影響を与える可能性があります。なお、新株予約権の内容は、「第一部 企業情報 第4 提出会社の状況 1 株式等の状況(2) 新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。

5 【経営上の重要な契約等】

相手方の名称	国名	契約品目	契約内容	契約期間又は契約締結年月日
グローバルメディアオンライン株式会社 (現 GMOインターネット株式会社)	日本	建物賃貸借契約	当社本店オフィスの賃貸借契約	平成17年1月1日から平成20年12月31日まで (1年単位の自動更新)

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7 【財政状態及び経営成績の分析】

本項における将来に関する事項は、本書提出日現在における当社が入手可能な情報から判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。その作成には、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要としております。経営者はこれらの見積りについて、過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積りによる不確実性のため、これらの見積りと異なる場合があります。

(2) 財務状態の分析

資産・負債・純資産の状況の分析等

当事業年度末における総資産の残高は、前事業年度末に比べ460,005千円増加し、1,734,081千円となりました。主な増加要因は、売上及び利益の増加並びに新規上場時の株式発行による「現金及び預金」の増加419,231千円及び「売掛金」の増加29,405千円、有形固定資産のうちサービス用サーバー投資による「工具器具及び備品」の増加10,407千円によるものであります。

一方、当事業年度末における負債の残高は、前事業年度末に比べ223,255千円増加し、1,026,379千円となりました。主な増加要因は、会員数の増加等に伴う「前受金」「預り金」の増加197,123千円及び事業拡大に伴う「営業未払金」の増加6,518千円によるものであります。

当事業年度末における純資産の残高は、前事業年度末に比べ236,749千円増加し、707,702千円となりました。これは、剰余金の配当により89,250千円減少したものの新規上場時の株式発行による「資本金」「資本準備金」の増加87,400千円及び当期純利益238,599千円を計上したことによるものであります。

キャッシュ・フローの分析等

キャッシュ・フローの分析に関しては前述の「1 業績等の概要(2) キャッシュ・フローの状況」において記載しております。

(3) 経営成績の分析

当事業年度における売上高は、クロスセルを目的とした新機能や新サービスの開発・提供を行い、各サービスにおいてスペックや機能の強化により新規顧客の拡大を図ったことにより、結果として2,214,420千円(前年同期比23.5%増)となりました。

売上原価は、ムードメインのドメイン登録手数料等の支払手数料が前年同期比116,069千円増の555,724千円になったこと、従業員の増加に伴う人件費(給与手当・法定福利費)が前年同期比35,566千円増の142,204千円となったこと等により、前年同期比193,737千円増の959,951千円となりました。

販売費及び一般管理費については、サービス料金回収代行業者への支払手数料等の支払手数料が前年同期比10,669千円増の107,444千円になったこと、従業員の増加に伴う人件費(給与手当・法定福利費)が前年同期比80,958千円増の358,066千円となったこと、広告宣伝費が前年同期比13,190千円増の107,052千円となったこと等により、前年同期比134,101千円増の796,132千円となりました。

営業外損益では、上場関連費用及び新株発行費等の計上により営業外費用が前年同期比25,754千円増の25,846千円となり、結果として、経常利益が前年同期比65,819千円増の433,084千円となりました。

特別損益では、コミュニティ事業の一部のサービスにおける減損損失の計上及びサービス用サーバーの除却損の計上により特別損失が前年同期比14,194千円増の25,181千円となり、結果として、税引前当期純利益が前年同期比51,624千円増の407,903千円となりました。これに法人税、住民税及び事業税175,287千円等を計上した結果、当期純利益は前年同期比35,767千円増の238,599千円となりました。

(4) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社の経営陣は、現在の事業環境及び入手可能な情報に基づき最善の経営方針を立案するよう努めております。当社の事業環境を鑑みると、ホスティング市場やEC市場において、今後さらに成長が見込まれておりますが、コミュニティ市場においては参入障壁の低さと技術革新の早さから新規参入が相次ぎ、競争が激化することも予想されます。

当社といたしましては、高付加価値のサービスを提供し続ける企業として、市場での位置を確立するために、経営効率の向上と適切な経営判断に努めてまいります。

第3 【設備の状況】

当社の設備において、ソフトウェアは重要な資産であるため、有形固定資産のほか無形固定資産のうち「ソフトウェア」を含めて設備の状況を記載しております。

1 【設備投資等の概要】

当事業年度における設備投資の金額は、61,166千円であります。その内容は主に、サービス安定化のためのサーバーの増強増設等に伴うものが30,043千円、自社利用サービスのためのソフトウェアの新規開発及び機能追加開発等に伴うものが31,123千円であります。なお、当事業年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

2 【主要な設備の状況】

平成20年12月31日現在

事業所名 (所在地)	事業部門	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (名)
			建物	工具器具 及び備品	ソフト ウェア	合計	
本社 (東京都渋谷区)	ホスティング事業	サーバー、自社利用 ソフトウェア	-	15,985	18,921	34,907	8(1)
本社 (東京都渋谷区)	コミュニティ事業	サーバー、自社利用 ソフトウェア	-	298	3,989	4,288	14(3)
本社 (東京都渋谷区)	EC支援事業	サーバー、自社利用 ソフトウェア	-	9,988	17,340	27,329	15(0)
本社 (東京都渋谷区)	会社統括業務	内部造作、P C等	4,170	1,615	259	6,046	34(2)
支社 (福岡市中央区)	ホスティング事業	自社利用ソフト ウェア、P C等	-	4,318	19,590	23,908	31(12)

(注) 1 ソフトウェアの帳簿価額にはソフトウェア仮勘定の金額は含まれておりません。なお、金額には消費税等は含まれておりません。

2 現在休止中の設備はありません。

3 従業員数欄の()は、臨時従業員数であり、外数として記載しております。

4 本社及び支社はすべて賃借中のものであり、設備の内容は以下のとおりであります。本社建物の帳簿価額は、内部造作を行った建物付属設備について記載しております。

事業所名 (所在地)	設備の内容	年間賃借料 (千円)
本社 (東京都渋谷区)	本社事業所	46,444
支社 (福岡市中央区)	支社事業所	8,469

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

平成20年12月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手及び完了予定		完成後の 増加能力
		総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
本社 (東京都渋谷区)	サービス提供用 サーバー設備等	112,800	28,681	増資資金 自己資金	(注2)		-
本社 (東京都渋谷区)	内部統制システム の強化に伴う設備 等	35,000	-	増資資金 自己資金	平成21年 9月	平成22年 1月	-
本社 (東京都渋谷区)	事業所の移転・拡 充に伴う設備等	77,680	-	自己資金	平成21年 11月	平成21年 12月	-

(注) 1 上記金額には消費税等は含まれておりません。

2 サービス提供用サーバー設備等は、継続的に行っている設備投資であるため着手及び完了予定については記載を省略しております。

(2) 重要な設備の除却等

平成20年12月31日現在における、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,500,000
計	1,500,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成20年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成21年3月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,325,000	1,325,000	ジャスダック 証券取引所	単元株式数100株
計	1,325,000	1,325,000	-	-

(注) 提出日現在の発行数には、平成21年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

会社法第236条、第238条及び第239条に基づく新株予約権

(平成19年5月14日臨時株主総会決議、平成19年5月14日取締役会決議)

区分	事業年度末現在 (平成20年12月31日)	提出日の前月末現在 (平成21年2月28日)
新株予約権の数(個)	804(注1)	800(注1)
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	40,200(注1,3,8)	40,000(注1,3,8)
新株予約権の行使時の払込金額(円)	2,468(注4,8)	同左
新株予約権の行使期間	自平成21年5月15日 至平成26年5月16日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 2,468 資本組入額 1,234(注8)	同左
新株予約権の行使の条件	(注2)	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	(注5)	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注6)	同左
新株予約権の取得条項に関する事項	(注7)	同左

- (注) 1 新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式の数は、退職等の理由により権利を喪失した者の個数及び株式数を減じております。
- 2 新株予約権の行使の条件
- (1) 新株予約権の割当を受けた者（以下「新株予約権者」という。）は、権利行使時においても、当社又は当社子会社の取締役、監査役及び従業員の地位にあることを要するものとする。ただし、当社が諸般の事情を考慮のうえ特例として取締役会で承認した場合はこの限りではない。
 - (2) 新株予約権者が死亡した場合は、新株予約権の相続を認めないものとする。ただし、新株予約権者が権利行使期間開始後に死亡した場合は、その法定相続人に限り新株予約権を行使できるものとする。なお、2次相続は認めない。
 - (3) その他の条件については、取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」の定めるところによる。
- 3 当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使していない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。
- $$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$
- 4 新株予約権発行後、当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{株式分割・株式併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で募集株式を発行（株式の無償割当による株式の発行及び自己株式を交付する場合を含み、新株予約権（新株予約権付社債も含む。）の行使による場合及び当社の普通株式に転換できる証券の転換による場合を除く。）する場合、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{調整前行使価額}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

ただし、算式中の「既発行株式数」は、上記の株式の発行の効力発生日の前日における当社の発行済株式総数から、当該時点における当社の保有する自己株式の数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式の数」に読み替えるものとする。

- 5 譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。
- 6 組織再編に際して定める契約書又は計画書等に以下に定める株式会社の新株予約権を交付する旨を定めた場合には、当該組織再編の比率に応じて、以下に定める株式会社の新株予約権を交付するものとする。
- (1) 合併（当社が消滅する場合に限る。）
合併後存続する株式会社又は合併により設立する株式会社
 - (2) 吸収分割
吸収分割をする株式会社とその事業に関して有する権利義務の全部又は一部を承継する株式会社
 - (3) 新設分割
新設分割により設立する株式会社
 - (4) 株式交換
株式交換をする株式会社の発行済株式の全部を取得する株式会社
 - (5) 株式移転
株式移転により設立する株式会社
- 7 新株予約権の取得の条件
- (1) 当社が消滅会社となる合併契約書、当社が完全子会社となる株式交換契約書、又は当社が分割会社となる会社分割についての分割計画書・分割契約書について株主総会の承認（株主総会の承認を要しない会社分割の場合は取締役会決議）がなされたとき、並びに株式移転の議案につき株主総会の決議がなされたときは、当社は新株予約権の全部を無償にて取得することができる。
 - (2) 新株予約権者が、(注) 2 (1)に定める規定に基づく新株予約権の行使の条件を満たさず、新株予約権を行使できなくなった場合、もしくは新株予約権者が権利行使期間開始前に死亡した場合は、当社はその新株予約権を無償にて取得することができる。
 - (3) その他の条件については、取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」の定めるところによる。
- 8 平成20年5月28日開催の取締役会決議により、平成20年6月21日付で株式1株を50株とする株式分割を行っております。これにより、「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」を調整しております。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成16年3月2日 (注1)	200	200	10,000	10,000	-	-
平成16年3月27日 (注2)	55	255	64,453	74,453	64,453	64,453
平成19年3月29日 (注3)	25,245	25,500	-	74,453	-	64,453
平成20年6月21日 (注4)	1,249,500	1,275,000	-	74,453	-	64,453
平成20年12月18日 (注5)	50,000	1,325,000	43,700	118,153	43,700	108,153

(注) 1 有限会社からの組織変更により出資1口に対して株式1株割当

発行価格 50,000円

資本組入額 50,000円

割当先 家入一真

2 有償第三者割当

発行価格 2,343,750円

資本組入額 1,171,875円

割当先 グローバルメディアオンライン株式会社(現 GMOインターネット株式会社)

3 普通株式1株を100株に分割

4 普通株式1株を50株に分割

5 有償一般募集(ブックビルディング方式)

発行価格 1,900円 引受価額 1,748円

発行価額 1,530円 資本組入額 874円

(5) 【所有者別状況】

平成20年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	-	3	11	4	1	2	477	498	-
所有株式数 (単元)	-	131	91	7,607	1	7	5,412	13,249	100
所有株式数 の割合(%)	-	0.99	0.69	57.42	0.01	0.05	40.85	100.00	-

(6) 【大株主の状況】

平成20年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
GMOインターネット株式会社	東京都渋谷区桜丘町26 1	760,000	57.36
家入 一真	東京都目黒区	385,000	29.06
ペパボ社員持株会	東京都渋谷区桜丘町26 1	25,000	1.89
日本証券金融株式会社(業務口)	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2 10	6,600	0.50
三井 瑞龍	神奈川県横浜市港南区	5,500	0.42
川畑 タヨ	神奈川県三浦郡葉山町	4,000	0.30
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	中央区晴海1丁目8 12晴海アイランドトリ トンスクエアオフィスタワーZ棟	3,500	0.26
伊澤 純子	東京都江東区	3,200	0.24
矢崎 康子	東京都台東区	3,000	0.23
大阪証券金融株式会社	大阪市中央区北浜2丁目4 6	3,000	0.23
計	-	1,198,800	90.48

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成20年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,324,900	13,249	-
単元未満株式	普通株式 100	-	-
発行済株式総数	1,325,000	-	-
総株主の議決権	-	13,249	-

【自己株式等】

平成20年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

(8) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、ストックオプション制度を採用しております。当該制度は、会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、新株予約権を発行する方法によるものであります。

(平成19年5月14日臨時株主総会、平成19年5月14日取締役会決議)

決議年月日	平成19年5月14日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役4名及び当社従業員56名(注)
新株予約権の目的となる株式の種類	(2)新株予約権等の状況に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上
新株予約権の取得条項に関する事項	同上

(注) 付与対象者の区分及び人数は、退職等の理由により権利を喪失した者を除いております。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

3 【配当政策】

環境変化の激しいインターネット業界においては、企業体質の強化及び積極的な事業展開に備えるための内部留保の充実が重要であると考えますが、利益還元も重要な経営課題と認識しております。当社では、事業の成長に基づく中長期的な株式価値の向上とともに、業績に連動した配当を継続的に実施する方針であります。

上記の方針に基づきまして、第7期の剰余金の配当につきましては、1株当たり80円といたしました。

当社の剰余金の配当は、期末配当の年1回を基本的な方針としております。なお、当社は会社法第454条第5項の規定に基づき、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。また、剰余金の配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

基準日が第7期事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりです。

決議年月日	配当金の総額	1株当たり配当額
平成21年3月25日 定時株主総会決議	106,000千円	80.00円

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期
決算年月	平成16年10月	平成16年12月	平成17年12月	平成18年12月	平成19年12月	平成20年12月
最高(円)	-	-	-	-	-	4,320
最低(円)	-	-	-	-	-	2,210

(注) 1 株価は、ジャスダック証券取引所におけるものであります。

2 当社株式は、平成20年12月19日からジャスダック証券取引所に上場されております。それ以前については、該当事項はありません。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成20年7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	-	-	-	-	-	4,320
最低(円)	-	-	-	-	-	2,210

(注) 1 株価は、ジャスダック証券取引所におけるものであります。

2 当社株式は、平成20年12月19日からジャスダック証券取引所に上場されております。それ以前については、該当事項はありません。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役会長		熊谷正寿	昭和38年7月17日生	平成3年5月 株式会社ボイスメディア(現 GMOインターネット株式会社)代表取締役社長就任 平成11年9月 株式会社まぐクリック(現 GMOアドパートナーズ株式会社)代表取締役社長就任 平成12年4月 同社取締役就任 平成13年8月 株式会社アイル(現 GMOホスティング&セキュリティ株式会社)代表取締役会長就任 平成15年3月 グローバルメディアオンライン株式会社(現 GMOインターネット株式会社)代表取締役会長兼社長就任(現任) 株式会社アイル(現 GMOホスティング&セキュリティ株式会社)取締役会長就任(現任) 平成16年3月 当社取締役会長就任(現任) 平成16年12月 株式会社カードコマースサービス(現 GMOペイメントゲートウェイ株式会社)取締役会長就任(現任) 平成17年3月 JWord株式会社代表取締役会長就任 平成19年3月 GMOソリューションパートナー株式会社取締役会長就任(現任) JWord株式会社取締役会長就任(現任) 株式会社まぐクリック(現 GMOアドパートナーズ株式会社)取締役会長就任(現任)	(注3)	
代表取締役 CCO		家入一真	昭和53年12月28日生	平成11年4月 有限会社ビーワン入社 平成12年4月 株式会社インフォグラム入社 平成13年10月 合資会社マダメ企画設立 有限責任社員就任 平成15年1月 有限会社 paperboy & co. (現 当社)設立 代表取締役就任 平成21年3月 当社代表取締役社長就任 平成17年1月 GMOパーソナル株式会社(現 GSS株式会社)取締役就任 平成17年4月 GMOアフィリエイト株式会社(現 GMOアドネットワークス株式会社)取締役就任 平成17年5月 株式会社メイクショップ(現 GMOメイクショップ株式会社)取締役就任 平成17年8月 株式会社グローバルフレックスブランニング(現 株式会社バリュープレス)取締役就任 平成17年9月 株式会社メイクショップ(現 GMOメイクショップ株式会社)取締役退任 平成18年12月 GMOプログ株式会社(現 GSS株式会社)取締役退任 平成19年3月 GMOアドネットワークス株式会社取締役退任 平成19年5月 株式会社バリュープレス取締役退任 平成21年3月 当社代表取締役CCO(最高クリエイティブ責任者)就任(現任)	(注3)	385,000

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	—	佐藤 健太郎	昭和56年1月10日生	平成15年1月 平成17年1月 平成17年10月 平成18年2月 平成19年3月 平成19年7月 平成20年3月 平成21年3月	有限会社paperboy & co. (現 当社)入社 当社社長室長 当社経営企画室長 当社取締役就任 当社取締役副社長就任 当社総務人事部長 当社代表取締役副社長就任 当社代表取締役社長就任(現任)	(注3)	
取締役 副社長	事業戦略 本部長	吉田 健吾	昭和49年6月3日生	平成13年1月 平成16年4月 平成16年9月 平成17年4月 平成18年1月 平成18年2月 平成18年3月 平成19年3月 平成19年8月	応用通信電業株式会社(現 株式会 社WP)入社 当社入社 当社事業部統括本部長兼JUGEM事 業部長 当社事業部統括本部長 当社事業部統括本部長兼ホスティ ング事業本部長 当社取締役就任 当社常務取締役就任 当社取締役副社長就任(現任) 当社事業戦略本部長(現任)	(注3)	
取締役	経理財務 部長	久保田 文之	昭和44年11月3日生	平成6年9月 平成10年10月 平成11年11月 平成12年7月 平成17年8月 平成17年10月 平成18年2月	学校法人大原学園大原簿記専門学 校入社 佐藤税理士事務所入所 ジャスネットコミュニケーション ズ株式会社入社 インターキュー株式会社(現 GMO インターネット株式会社)入社 当社入社 当社経理財務部長(現任) 当社取締役就任(現任)	(注3)	
取締役	ホスティング 事業本部長	進 浩人	昭和54年3月10日生	平成13年4月 平成14年4月 平成15年10月 平成16年6月 平成18年1月 平成18年4月 平成19年1月 平成21年3月	株式会社三菱電機インフォメー ションシステムズ入社 株式会社インフォグラム入社 有限会社paperboy&co.(現当社) 入社 当社ColorMeShop! 事業部長 当社EC事業本部長兼ColorMeShop! 事業部長 当社EC事業本部長兼ホスティング 事業副本部長 当社ホスティング事業本部長(現 任) 当社取締役就任(現任)	(注3)	1,800
取締役		渡邊 直哉	昭和46年7月28日生	平成8年11月 平成13年12月 平成14年4月 平成16年3月 平成16年9月 平成18年8月 平成20年9月	インターキュー株式会社(現 GMO インターネット株式会社)入社 グローバルメディアオンライン株 式会社(現 GMOインターネット株 式会社)ドメイン事業本部長 同社ドメインカンパニープレジデ ント 当社取締役就任(現任) グローバルメディアオンライン株 式会社(現 GMOインターネット株 式会社)取締役就任 同社ドメイン・サーバーカンパ ニープレジデント 同社IXP統括本部長 同社社長室長兼IXP統括本部担当 同社グループ代表室長(現任)	(注3)	

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)	
取締役		神谷アントニオ	昭和47年11月27日生	平成6年5月 平成10年7月 平成14年7月 平成21年3月	Kamiya Consulting, Inc. CEO (現任) Fujsian.com, Inc. 入社 株式会社富士山マガジンサービス取締役CTO (現任) 当社取締役就任(現任)	(注3)		
常勤監査役		金 治 昭	昭和24年12月4日生	昭和47年4月 平成11年4月 平成17年11月 平成19年7月 平成20年3月 平成21年3月	日興証券株式会社(現日興コーポリアル証券株式会社)入社 富士証券株式会社(現みずほ証券株式会社)入社 GMOインターネット証券株式会社(現クリック証券株式会社)入社 当社入社 当社上場準備室長 当社内部監査室長 当社常勤監査役就任(現任)	(注4)	500	
監査役		安 田 昌 史	昭和46年6月10日生	平成8年10月 平成12年4月 平成13年9月 平成14年3月 平成15年3月 平成16年3月 平成16年12月 平成17年3月 平成20年3月 平成20年7月	センチュリー監査法人(現 新日本有限責任監査法人)入所 同監査法人退所 公認会計士登録 グローバルメディアオンライン株式会社(現 GMOインターネット株式会社)入社 同社経営戦略室長 同社取締役就任 同社グループ経営戦略担当兼IR担当 同社常務取締役就任 株式会社アイル(現 GMOホスティング&セキュリティ株式会社)取締役就任(現任) 同社管理部門統括・グループ経営戦略・IR担当 株式会社カードコマースサービス(現 GMOペイメントゲートウェイ株式会社)監査役就任(現任) グローバルメディアオンライン株式会社(現 GMOインターネット株式会社)専務取締役就任(現任) 当社監査役就任(現任) 株式会社まぐクリック(現 GMOアドパートナーズ株式会社)取締役就任(現任) GMOインターネット株式会社グループ管理部門統括(現任)	(注5)		
監査役		増 田 要	昭和38年4月25日生	平成2年4月 平成10年10月 平成12年11月 平成13年3月 平成15年11月 平成18年9月 平成20年2月 平成20年5月 平成20年6月	第一東京弁護士会弁護士登録 西村総合法律事務所(現 西村あさひ法律事務所)入所 メリルリンチ日本証券株式会社入社 同社法務部長[ジェネラルカウンセル](個人顧客部門) 同社執行役員兼法務部長 新村総合法律事務所入所 ニューヨーク州弁護士登録 増田パートナーズ法律事務所設立 当社監査役就任(現任) 株式会社じぶん銀行社外監査役就任(現任)	(注5)		
計								387,300

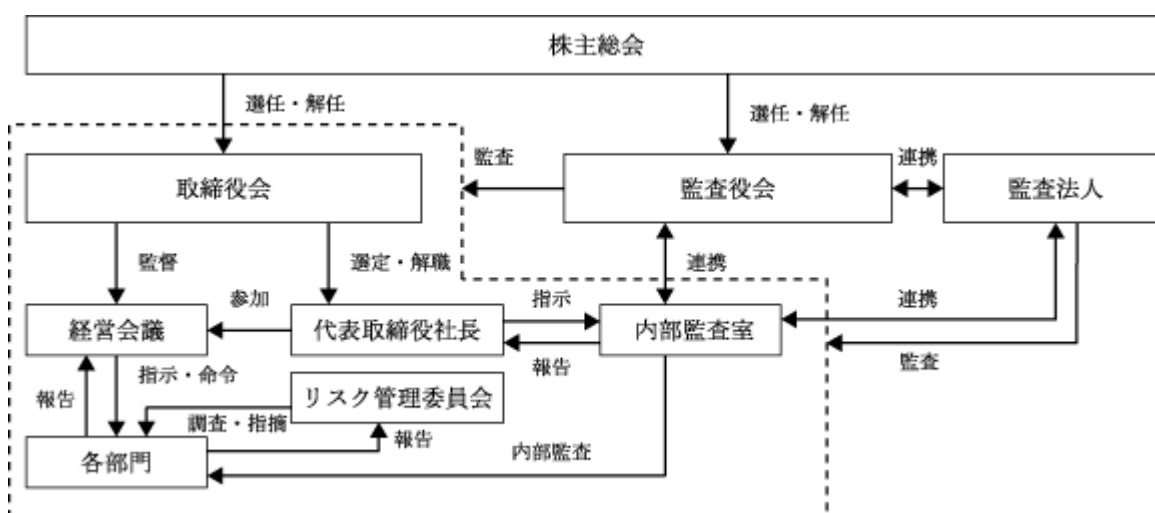
- (注) 1 取締役熊谷正寿、渡邊直哉、神谷アントニオは、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2 監査役安田昌史、増田要は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3 平成21年3月25日の定時株主総会終結の時から平成21年12月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4 平成21年3月25日の定時株主総会終結の時から平成23年12月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
5 平成20年6月23日の臨時株主総会終結の時から平成23年12月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社は、株主及び関係者に対し公正かつ公平な利益を守るため、また、企業価値の継続的な向上のため、コーポレート・ガバナンス体制の強化を経営の最重要事項であると認識し、ガバナンス体制の強化、充実に取り組んでおります。

また、平成18年5月24日の取締役会において定め、平成20年5月19日の取締役会において改定した内部統制システム構築の基本方針に従い、主に以下の諸施策の継続的な実施を推進しております。

当社の内部統制システムは以下のとおりです。



(1) コーポレート・ガバナンスに関する諸施策の実施状況（期末日現在）

会社の機関内容

取締役会は取締役6名（常勤取締役4名、非常勤取締役2名）で構成されており、毎月1回定例取締役会を開催し、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。取締役会においては、経営の基本方針、法令や定款で定められた事項、経営に関する重要事項の決定を行い、各取締役の職務の執行を監督しております。

また、当社では会社運営の迅速性を確保するため、毎週1回常勤取締役によって構成される経営会議を開催しております。経営会議は経営課題の検討及び重要な業務に関する意思決定を行っております。

監査体制の強化

当社は監査役会制度を採用しております。監査役3名（常勤監査役1名、非常勤監査役2名）で構成され、監査報告の作成、常勤監査役の選定、監査方針の決定などを行っております。各監査役は監査役監査規程に基づき、取締役会はもとより重要な会議への出席や業務、財産状況の調査などを通じて、業務監査も含めて各取締役の職務執行の監査を行っております。また、内部監査室とも意見調整を行いながら、効率的、合理的な監査体制を整備しております。

内部監査

内部監査室に属する内部監査担当者1名が、各部門における業務全般に亘る監査を内部監査計画に基づいて行っております。監査結果を社長に報告し、被監査部門に対しては改善事項の具体的な指摘及び勧告を行うとともに、改善状況の報告を受けることで実効性の高い監査の実施に努めております。また、監査役、監査法人と密接な連携をはかり、効率的、合理的な監査体制を整備しております。

内部統制システムの整備状況

社内規程や稟議制度の整備・運用により、組織内の牽制が適切に機能し、適正な業務執行がなされる体制を整備しております。

業務執行から独立した部署として設置した内部監査室が、各部門における業務執行の妥当性・適法性について検証し、社長への報告及び被監査部門に対する具体的な指摘・勧告を行うことにより、業務改善及び経営の健全化に努めております。

リスク管理体制の整備

当社では、事業戦略本部長を委員長とするリスク管理委員会を設置し、情報セキュリティ、サービス品質、コンプライアンス、事故等の具体的リスク発生事案に関する情報の把握と顕在化したリスクによる顧客及び当社への影響を極小化するための対策を推進し、適切なリスク管理を行うべく体制の構築を行っております。

会社と会社の社外取締役及び社外監査役の人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係の概要

当社では、当社の親会社にあたるGMOインターネット株式会社より社外取締役として熊谷正寿と渡邊直哉の2名、社外監査役として安田昌史の1名を選任しております。GMOインターネット株式会社との関係については「第2 事業の状況 4 事業等のリスク (1) GMOインターネットグループとの関係について」に記載のとおりであります。その他、社外監査役である増田要と当社との間に人的関係、資本的关系、取引関係及びその他の利害関係はありません。

(2) 役員報酬の内容

当事業年度における当社の取締役及び監査役に対する役員報酬は以下のとおりであります。

取締役の年間報酬総額	70,033千円(うち、社外取締役 - 千円)
監査役の年間報酬総額	8,464千円(うち、社外監査役2,400千円)
	78,498千円

(3) 監査報酬の内容

当事業年度における監査法人に対する監査報酬は以下のとおりであります。

公認会計士法第2条第1項に規定する業務に基づく報酬	14,000千円
上記以外の業務に係る報酬	3,935千円

(注) 上記以外の業務に係る報酬は、内部統制に関する助言・指導業務等に対する報酬であります。

(4) 会計監査業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名、提出会社に係る継続監査年数及び監査業務に係る補助者の構成

会計監査業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名、提出会社に係る継続監査年数

会計監査につきましては、監査法人トーマツに委嘱しております。同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員と当社の間には、特別な利害関係はありません。

指定社員 業務執行社員 猪瀬 忠彦

指定社員 業務執行社員 吉村 孝郎

(注) 継続監査年数については全員7年以内であるため記載を省略しております。

監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 2名

会計士補等 8名

(5) 取締役の定数（本書提出日現在）

当社の取締役は8名以内とする旨を定款で定めております。

(6) 取締役の選任の決議要件（本書提出日現在）

当社は、取締役の選任決議について、株主総会において、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって選任する旨及び累積投票によらない旨を定款で定めております。

(7) 社外監査役の責任限定契約（本書提出日現在）

当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第427条第1項の規定により、社外監査役との間で、法令が定める額を限度として、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨を定款で定めております。なお、当社と社外監査役増田要は、会社法第427条第1項の規定に基づき、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は会社法第425条第1項各号の合計額としております。

(8) 自己株式の取得に関する事項（本書提出日現在）

当社は、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会決議によって市場取引等により自己株式を取得することができる旨を定款で定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするためであります。

(9) 中間配当に関する事項（本書提出日現在）

当社は、会社法第454条第5項の規定に基づく中間配当を取締役会の決議で行うことができる旨を定款で定めております。これは、株主へ機動的な利益還元を行うことを目的とするものです。

(10) 株主総会の特別決議要件（本書提出日現在）

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって決議を行う旨を定款に定めております。これは、株主総会の特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

第5 【経理の状況】

1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下、「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前事業年度(平成19年1月1日から平成19年12月31日まで)については、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度(平成20年1月1日から平成20年12月31日まで)については、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前事業年度(平成19年1月1日から平成19年12月31日まで)及び当事業年度(平成20年1月1日から平成20年12月31日まで)の財務諸表について、監査法人トーマツの監査を受けております。

なお、前事業年度に係る監査報告書は、平成20年11月18日に提出した有価証券届出書に添付されたものを利用しております。

3 連結財務諸表について

当社は子会社を有していないため、連結財務諸表は作成しておりません。

1 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

区分	注記 番号	前事業年度 (平成19年12月31日)		当事業年度 (平成20年12月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
(資産の部)					
流動資産					
1 現金及び預金		864,483		1,283,715	
2 売掛金	2	231,154		260,560	
3 貯蔵品		344		3,377	
4 前渡金		3,735		6,451	
5 前払費用		21,717		23,842	
6 繰延税金資産		12,165		8,787	
7 その他		1,173		500	
流動資産合計		1,134,773	89.1	1,587,234	91.5
固定資産					
1 有形固定資産	1				
(1) 建物		5,084		4,170	
(2) 工具器具及び備品		21,799		32,206	
有形固定資産合計		26,883	2.1	36,377	2.1
2 無形固定資産					
(1) のれん		3,809		1,904	
(2) ソフトウェア		67,460		60,101	
(3) ソフトウェア仮勘定		9,368		8,237	
(4) その他		624		624	
無形固定資産合計		81,261	6.4	70,867	4.1
3 投資その他の資産					
(1) 繰延税金資産		4,634		13,996	
(2) 敷金保証金	2	25,869		25,299	
(3) その他		653		306	
投資その他の資産合計		31,157	2.4	39,602	2.3
固定資産合計		139,302	10.9	146,847	8.5
資産合計		1,274,076	100.0	1,734,081	100.0

区分	注記 番号	前事業年度 (平成19年12月31日)		当事業年度 (平成20年12月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
(負債の部)					
流動負債					
1 営業未払金	2	46,351		52,870	
2 未払金		28,662		48,304	
3 未払費用		57,995		59,444	
4 未払法人税等		108,200		100,295	
5 未払消費税等		18,261		21,624	
6 前受金		483,086		637,878	
7 預り金		58,418		100,749	
8 その他		2,148		5,212	
流動負債合計		803,124	63.0	1,026,379	59.2
負債合計		803,124	63.0	1,026,379	59.2
(純資産の部)					
株主資本					
1 資本金		74,453	5.8	118,153	6.8
2 資本剰余金					
(1) 資本準備金		64,453		108,153	
資本剰余金合計		64,453	5.1	108,153	6.2
3 利益剰余金					
(1) 利益準備金		3,650		3,650	
(2) その他利益剰余金					
繰越利益剰余金		328,396		477,746	
利益剰余金合計		332,046	26.1	481,396	27.8
株主資本合計		470,952	37.0	707,702	40.8
純資産合計		470,952	37.0	707,702	40.8
負債純資産合計		1,274,076	100.0	1,734,081	100.0

【損益計算書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)			当事業年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)		
		金額(千円)		百分比 (%)	金額(千円)		百分比 (%)
売上高			1,793,755	100.0		2,214,420	100.0
売上原価	2		766,213	42.7		959,951	43.4
売上総利益			1,027,541	57.3		1,254,468	56.6
販売費及び一般管理費	1,2		662,030	36.9		796,132	35.9
営業利益			365,510	20.4		458,336	20.7
営業外収益							
1 受取利息	2	1,746			0		
2 その他		101	1,847	0.1	595	595	0.0
営業外費用							
1 為替差損		34			95		
2 上場関連費用		-			18,121		
3 株式交付費		-			7,231		
4 その他		58	92	0.0	397	25,846	1.1
経常利益			367,265	20.5		433,084	19.6
特別損失							
1 固定資産除却損	3	578			188		
2 減損損失	4	10,409	10,987	0.6	24,993	25,181	1.2
税引前当期純利益			356,278	19.9		407,903	18.4
法人税、住民税 及び事業税		161,821			175,287		
法人税等調整額		8,376	153,445	8.6	5,984	169,303	7.6
当期純利益			202,832	11.3		238,599	10.8

売上原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成19年 1月 1日 至 平成19年12月31日)		当事業年度 (自 平成20年 1月 1日 至 平成20年12月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
労務費					
1 給与手当		95,202		126,362	
2 法定福利費		11,435		15,842	
労務費合計		106,637	13.9	142,204	14.8
外注費		157,590	20.6	164,920	17.2
経費					
1 支払手数料		439,655		555,724	
2 減価償却費		26,436		36,225	
3 地代家賃		10,851		15,701	
4 旅費交通費		3,035		5,019	
5 その他	1	22,007		40,155	
経費合計		501,985	65.5	652,825	68.0
売上原価		766,213	100.0	959,951	100.0

1 その他の主な内訳は以下のとおりであります。

前事業年度 (自 平成19年 1月 1日 至 平成19年12月31日)		当事業年度 (自 平成20年 1月 1日 至 平成20年12月31日)	
水道光熱費	1,637千円	水道光熱費	2,392千円
リース費	2,451千円	リース費	3,626千円
通信費	13,559千円	通信費	28,564千円
保守費	1,483千円	保守費	2,058千円

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)

項目	株主資本					株主資本 合計	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金		利益剰余金 合計		
		資本準備金	利益準備金	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金			
平成18年12月31日残高 (千円)	74,453	64,453	3,650	194,770	198,420	337,326	337,326
事業年度中の変動額							
剰余金の配当	-	-	-	69,207	69,207	69,207	69,207
当期純利益	-	-	-	202,832	202,832	202,832	202,832
事業年度中の変動額合計 (千円)	-	-	-	133,625	133,625	133,625	133,625
平成19年12月31日残高 (千円)	74,453	64,453	3,650	328,396	332,046	470,952	470,952

当事業年度(自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)

項目	株主資本					株主資本 合計	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金		利益剰余金 合計		
		資本準備金	利益準備金	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金			
平成19年12月31日残高 (千円)	74,453	64,453	3,650	328,396	332,046	470,952	470,952
事業年度中の変動額							
新株の発行	43,700	43,700	-	-	-	87,400	87,400
剰余金の配当	-	-	-	89,250	89,250	89,250	89,250
当期純利益	-	-	-	238,599	238,599	238,599	238,599
事業年度中の変動額合計 (千円)	43,700	43,700	-	149,349	149,349	236,749	236,749
平成20年12月31日残高 (千円)	118,153	108,153	3,650	477,746	481,396	707,702	707,702

【キャッシュ・フロー計算書】

		前事業年度 (自 平成19年 1月 1日 至 平成19年12月31日)	当事業年度 (自 平成20年 1月 1日 至 平成20年12月31日)
区分	注記 番号	金額(千円)	金額(千円)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
1 税引前当期純利益		356,278	407,903
2 減価償却費		28,506	38,300
3 減損損失		10,409	24,993
4 固定資産除却損		578	188
5 受取利息		1,746	0
6 株式交付費		-	7,231
7 上場関連費用		-	18,121
8 売上債権の増減額(増加:)		65,782	29,405
9 その他流動資産の増減額(増加:)		6,374	7,326
10 営業未払金の増減額(減少:)		11,819	6,518
11 前受金の増減額(減少:)		143,410	154,792
12 預り金の増減額(減少:)		35,860	42,331
13 その他流動負債の増減額(減少:)		22,358	13,696
14 その他		538	506
小計		535,856	677,851
15 利息の受取額		1,746	0
16 法人税等の支払額		137,148	183,192
営業活動によるキャッシュ・フロー		400,454	494,659
投資活動によるキャッシュ・フロー			
1 有形固定資産の取得による支出		24,915	30,043
2 無形固定資産の取得による支出		44,535	31,123
3 敷金保証金の回収による収入		215	570
4 敷金保証金の支払による支出		10,175	-
5 その他		-	200
投資活動によるキャッシュ・フロー		79,411	60,796
財務活動によるキャッシュ・フロー			
1 配当金の支払による支出		69,207	89,250
2 株式の発行による収入		-	87,400
3 株式交付費の支出		-	2,374
4 上場関連費用の支出		-	10,406
財務活動によるキャッシュ・フロー		69,207	14,630
現金及び現金同等物の増加額		251,835	419,231
現金及び現金同等物の期首残高		612,648	864,483
現金及び現金同等物の期末残高		864,483	1,283,715

重要な会計方針

項目	前事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当事業年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)
1 たな卸資産の評価基準及び評価方法	(1) 貯蔵品 総平均法による原価法を採用しております。	(1) 貯蔵品 同左
2 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 3～15年 工具器具及び備品 4～6年 (2) 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能見込期間(5年)に基づく定額法を採用しております。 また、のれんについては5年で均等償却しております。 (3) 長期前払費用 定額法を採用しております。	(1) 有形固定資産 同左 (2) 無形固定資産 同左 (3) 長期前払費用 同左
3 繰延資産の処理方法		株式交付費 支出時に全額費用として処理しております。
4 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準	外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。	同左
5 リース取引の処理方法	リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。	同左
6 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。	キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金からなっております。
7 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税及び地方消費税の会計処理 税抜方式によっております。	同左

会計方針の変更

前事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当事業年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)
<p>会計処理の変更 (固定資産の減価償却の方法) 平成19年度の法人税法改正に伴い、平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産について「新定率法」を採用しております。なお、この変更による損益に与える影響は軽微であります。</p>	

追加情報

前事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当事業年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)
	<p>(固定資産の減価償却の方法) 当事業年度より、平成19年3月31日以前に取得したのものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。 当該変更に伴う損益に与える影響は、軽微であります。</p> <p>(法人事業税の外形標準課税制度) 当事業年度から資本金が1億円超になり外形標準課税制度が適用となったことに伴い、「法人事業税における外形標準課税部分の損益計算書上の表示についての実務上の取扱い」(企業会計基準委員会 実務対応報告第12号 平成16年2月13日)に従い、法人事業税の付加価値割及び資本割については、販売費および一般管理費に計上しております。 この結果、販売費及び一般管理費が4,695千円増加し、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益が4,695千円減少しております。</p>

注記事項

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成19年12月31日)	当事業年度 (平成20年12月31日)										
<p>1 有形固定資産の減価償却累計額は、14,599千円であります。</p> <p>2 関係会社に対するものが以下のとおり含まれております。</p> <table> <tr> <td>売掛金</td> <td>15,853千円</td> </tr> <tr> <td>敷金保証金</td> <td>19,295千円</td> </tr> <tr> <td>営業未払金</td> <td>24,283千円</td> </tr> </table>	売掛金	15,853千円	敷金保証金	19,295千円	営業未払金	24,283千円	<p>1 有形固定資産の減価償却累計額は、30,615千円であります。</p> <p>2 関係会社に対するものが以下のとおり含まれております。</p> <table> <tr> <td>敷金保証金</td> <td>19,295千円</td> </tr> <tr> <td>営業未払金</td> <td>28,953千円</td> </tr> </table>	敷金保証金	19,295千円	営業未払金	28,953千円
売掛金	15,853千円										
敷金保証金	19,295千円										
営業未払金	24,283千円										
敷金保証金	19,295千円										
営業未払金	28,953千円										

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成19年 1月 1日 至 平成19年12月31日)	当事業年度 (自 平成20年 1月 1日 至 平成20年12月31日)																																																																																
<p>1 販売費に属する費用のおおよその割合は29.4%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は70.6%であります。</p> <p>主要な費目及び金額は以下のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">役員報酬</td><td style="text-align: right;">64,674千円</td></tr> <tr><td>給与賞与</td><td style="text-align: right;">243,323千円</td></tr> <tr><td>法定福利費</td><td style="text-align: right;">33,783千円</td></tr> <tr><td>地代家賃</td><td style="text-align: right;">34,384千円</td></tr> <tr><td>減価償却費</td><td style="text-align: right;">2,070千円</td></tr> <tr><td>支払手数料</td><td style="text-align: right;">96,775千円</td></tr> <tr><td>広告宣伝費</td><td style="text-align: right;">93,862千円</td></tr> </table> <p>2 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">受取利息</td><td style="text-align: right;">1,746千円</td></tr> </table> <p>3 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">工具器具及び備品</td><td style="text-align: right;">283千円</td></tr> <tr><td>ソフトウェア</td><td style="text-align: right;">294千円</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">578千円</td></tr> </table> <p>4 減損損失 当事業年度において、当社は、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。</p> <p>(1) 減損損失を認識した主な資産</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr><th style="width: 33%;">場所</th><th style="width: 33%;">用途</th><th style="width: 33%;">種類</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>大阪市北区</td><td>事業用資産</td><td>工具器具及び備品</td></tr> <tr><td>東京都渋谷区</td><td>事業用資産</td><td>ソフトウェア</td></tr> </tbody> </table> <p>(2) 減損損失の認識に至った経緯 コミュニティ事業の一部サービスについて、当初予定していた計画と大幅な乖離が発生しましたので、当該事業に係る資産グループについて減損損失を認識しております。</p> <p>(3) 減損損失の金額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">工具器具及び備品</td><td style="text-align: right;">697千円</td></tr> <tr><td>ソフトウェア</td><td style="text-align: right;">9,711千円</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">10,409千円</td></tr> </table> <p>(4) 資産のグルーピングの方法 当社は、減損の適用にあたり、サービス単位を基準とした管理会計上の区分に従って、それらを概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位としてグルーピングを行っております。</p> <p>(5) 回収可能価額の算定方法 当資産グループの回収可能価額は、使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを12.35%で割り引いて算定しております。</p>	役員報酬	64,674千円	給与賞与	243,323千円	法定福利費	33,783千円	地代家賃	34,384千円	減価償却費	2,070千円	支払手数料	96,775千円	広告宣伝費	93,862千円	受取利息	1,746千円	工具器具及び備品	283千円	ソフトウェア	294千円	計	578千円	場所	用途	種類	大阪市北区	事業用資産	工具器具及び備品	東京都渋谷区	事業用資産	ソフトウェア	工具器具及び備品	697千円	ソフトウェア	9,711千円	計	10,409千円	<p>1 販売費に属する費用のおおよその割合は 27.8%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は72.2%であります。</p> <p>主要な費目及び金額は以下のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">役員報酬</td><td style="text-align: right;">73,998千円</td></tr> <tr><td>給与賞与</td><td style="text-align: right;">313,880千円</td></tr> <tr><td>法定福利費</td><td style="text-align: right;">44,185千円</td></tr> <tr><td>地代家賃</td><td style="text-align: right;">39,241千円</td></tr> <tr><td>減価償却費</td><td style="text-align: right;">2,075千円</td></tr> <tr><td>支払手数料</td><td style="text-align: right;">107,444千円</td></tr> <tr><td>広告宣伝費</td><td style="text-align: right;">107,052千円</td></tr> </table> <p>2 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">売上原価、販売費及び一般管理費</td><td style="text-align: right;">368,961千円</td></tr> </table> <p>3 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">工具器具及び備品</td><td style="text-align: right;">188千円</td></tr> </table> <p>4 減損損失 当事業年度において、当社は、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。</p> <p>(1) 減損損失を認識した主な資産</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr><th style="width: 33%;">場所</th><th style="width: 33%;">用途</th><th style="width: 33%;">種類</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>東京都渋谷区</td><td>事業用資産</td><td>工具器具及び備品</td></tr> <tr><td>東京都渋谷区</td><td>事業用資産</td><td>ソフトウェア</td></tr> <tr><td>東京都渋谷区</td><td>事業用資産</td><td>ソフトウェア 仮勘定</td></tr> <tr><td>東京都渋谷区</td><td>事業用資産</td><td>長期前払費用</td></tr> </tbody> </table> <p>(2) 減損損失の認識に至った経緯 コミュニティ事業の一部サービスについて、当初予定していた計画と大幅な乖離が発生しましたので、当該事業に係る資産グループについて減損損失を認識しております。</p> <p>(3) 減損損失の金額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">工具器具及び備品</td><td style="text-align: right;">5,429千円</td></tr> <tr><td>ソフトウェア</td><td style="text-align: right;">14,294千円</td></tr> <tr><td>ソフトウェア仮勘定</td><td style="text-align: right;">4,965千円</td></tr> <tr><td>長期前払費用</td><td style="text-align: right;">303千円</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">24,993千円</td></tr> </table> <p>(4) 資産のグルーピングの方法 当社は、減損の適用にあたり、サービス単位を基準とした管理会計上の区分に従って、それらを概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位としてグルーピングを行っております。</p> <p>(5) 回収可能価額の算定方法 当資産グループの回収可能価額は、使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローがマイナスであるため具体的な割引率の算定は行っておりません。</p>	役員報酬	73,998千円	給与賞与	313,880千円	法定福利費	44,185千円	地代家賃	39,241千円	減価償却費	2,075千円	支払手数料	107,444千円	広告宣伝費	107,052千円	売上原価、販売費及び一般管理費	368,961千円	工具器具及び備品	188千円	場所	用途	種類	東京都渋谷区	事業用資産	工具器具及び備品	東京都渋谷区	事業用資産	ソフトウェア	東京都渋谷区	事業用資産	ソフトウェア 仮勘定	東京都渋谷区	事業用資産	長期前払費用	工具器具及び備品	5,429千円	ソフトウェア	14,294千円	ソフトウェア仮勘定	4,965千円	長期前払費用	303千円	計	24,993千円
役員報酬	64,674千円																																																																																
給与賞与	243,323千円																																																																																
法定福利費	33,783千円																																																																																
地代家賃	34,384千円																																																																																
減価償却費	2,070千円																																																																																
支払手数料	96,775千円																																																																																
広告宣伝費	93,862千円																																																																																
受取利息	1,746千円																																																																																
工具器具及び備品	283千円																																																																																
ソフトウェア	294千円																																																																																
計	578千円																																																																																
場所	用途	種類																																																																															
大阪市北区	事業用資産	工具器具及び備品																																																																															
東京都渋谷区	事業用資産	ソフトウェア																																																																															
工具器具及び備品	697千円																																																																																
ソフトウェア	9,711千円																																																																																
計	10,409千円																																																																																
役員報酬	73,998千円																																																																																
給与賞与	313,880千円																																																																																
法定福利費	44,185千円																																																																																
地代家賃	39,241千円																																																																																
減価償却費	2,075千円																																																																																
支払手数料	107,444千円																																																																																
広告宣伝費	107,052千円																																																																																
売上原価、販売費及び一般管理費	368,961千円																																																																																
工具器具及び備品	188千円																																																																																
場所	用途	種類																																																																															
東京都渋谷区	事業用資産	工具器具及び備品																																																																															
東京都渋谷区	事業用資産	ソフトウェア																																																																															
東京都渋谷区	事業用資産	ソフトウェア 仮勘定																																																																															
東京都渋谷区	事業用資産	長期前払費用																																																																															
工具器具及び備品	5,429千円																																																																																
ソフトウェア	14,294千円																																																																																
ソフトウェア仮勘定	4,965千円																																																																																
長期前払費用	303千円																																																																																
計	24,993千円																																																																																

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)

1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	255	25,245		25,500

(変動事由の概要)

増加数の内容は、次のとおりであります。

平成19年3月29日付で行った株式1株を100株とする株式分割による増加 25,245株

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成19年3月19日 定時株主総会	普通株式	69,207	271,400	平成18年12月31日	平成19年3月20日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成20年3月17日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	89,250	3,500	平成19年12月31日	平成20年3月18日

当事業年度(自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)

1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	25,500	1,299,500		1,325,000

(変動事由の概要)

増加数の内容は、次のとおりであります。

平成20年6月21日付で行った株式1株を50株とする株式分割による増加 1,249,500株

公募増資による増加 50,000株

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成20年3月17日 定時株主総会	普通株式	89,250	3,500	平成19年12月31日	平成20年3月18日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年3月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	106,000	80	平成20年12月31日	平成21年3月26日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

前事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当事業年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)
現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金及び現金同等物の範囲と現金及び預金勘定は一致しております。	現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 同左

(リース取引関係)

前事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当事業年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)																																
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引	リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引																																
1 リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額	1 リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額 相当額</th> <th>減価償却累 計額相当額</th> <th>期末残高 相当額</th> </tr> <tr> <th></th> <th>千円</th> <th>千円</th> <th>千円</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工具器具 及び備品</td> <td>12,960</td> <td>1,728</td> <td>11,232</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>12,960</td> <td>1,728</td> <td>11,232</td> </tr> </tbody> </table>		取得価額 相当額	減価償却累 計額相当額	期末残高 相当額		千円	千円	千円	工具器具 及び備品	12,960	1,728	11,232	合計	12,960	1,728	11,232	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額 相当額</th> <th>減価償却累 計額相当額</th> <th>期末残高 相当額</th> </tr> <tr> <th></th> <th>千円</th> <th>千円</th> <th>千円</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工具器具 及び備品</td> <td>12,960</td> <td>4,320</td> <td>8,640</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>12,960</td> <td>4,320</td> <td>8,640</td> </tr> </tbody> </table>		取得価額 相当額	減価償却累 計額相当額	期末残高 相当額		千円	千円	千円	工具器具 及び備品	12,960	4,320	8,640	合計	12,960	4,320	8,640
	取得価額 相当額	減価償却累 計額相当額	期末残高 相当額																														
	千円	千円	千円																														
工具器具 及び備品	12,960	1,728	11,232																														
合計	12,960	1,728	11,232																														
	取得価額 相当額	減価償却累 計額相当額	期末残高 相当額																														
	千円	千円	千円																														
工具器具 及び備品	12,960	4,320	8,640																														
合計	12,960	4,320	8,640																														
2 未経過リース料期末残高相当額等	2 未経過リース料期末残高相当額等																																
1年以内	1年以内																																
2,473千円	2,555千円																																
1年超	1年超																																
8,846千円	6,291千円																																
合計	合計																																
11,320千円	8,846千円																																
3 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額	3 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額																																
支払リース料	支払リース料																																
1,868千円	2,802千円																																
減価償却費相当額	減価償却費相当額																																
1,728千円	2,592千円																																
支払利息相当額	支払利息相当額																																
228千円	328千円																																
4 減価償却費相当額の算定方法	4 減価償却費相当額の算定方法																																
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。	同左																																
5 利息相当額の算定方法	5 利息相当額の算定方法																																
リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。	同左																																
(減損損失について)	(減損損失について)																																
リース資産に配分された減損損失はありません。	リース資産に配分された減損損失はありません。																																

(有価証券関係)

前事業年度(自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)

当社は有価証券を保有していないため、該当事項はありません。

当事業年度(自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)

当社は有価証券を保有していないため、該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

前事業年度(自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)

当社はデリバティブ取引を利用しておりませんので、該当事項はありません。

当事業年度(自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)

当社はデリバティブ取引を利用しておりませんので、該当事項はありません。

(退職給付関係)

前事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当事業年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)
当社は退職給付制度を採用しておりませんので、該当事項はありません。	同左

(ストック・オプション等関係)

前事業年度(自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)

(1) スtock・オプションの内容

	第1回新株予約権
決議年月日	平成19年5月14日
付与対象者の区分及び人数	取締役 4名 監査役 1名 従業員 66名
ストック・オプション数(注)	普通株式 950株
付与日	平成19年5月15日
権利確定条件	新株予約権者は、権利行使時においても、当社又は当社子会社の取締役、監査役及び従業員の地位にあることを要するものとする。ただし、当社が諸般の事情を考慮の上、特例として取締役会で承認した場合はこの限りではない。その他の条件については、「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。
対象勤務期間	対象勤務期間はありません。
権利行使期間	平成21年5月15日から平成26年5月16日まで

(注) 株式数に換算しております。

(2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

当事業年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	第1回新株予約権
権利確定前(株)	
前事業年度末	
付与	950
失効	100

権利確定	
未確定残	850

(注) 当社の発行したストック・オプションは、権利行使期間到来前のものです。

単価情報

	第1回新株予約権
権利行使価格(円)	123,400
行使時平均株価(円)	
公正な評価単価(円)	

(3) 当事業年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

当社は、未公開企業であるため、公正な評価単価の見積りは、単位当たりの本源的価値の見積りに基づいて算定しております。なお、単位当たりの本源的価値を算出する基礎となった算定時点における自社の株式の評価方法は、ディスカウントキャッシュフロー法(DCF法)により算出した価格を総合的に勘案して決定しております。

(4) スtock・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(5) 当事業年度末における本源的価値の合計額及び当事業年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

当事業年度末における本源的価値の合計額

円

当事業年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)

(1) スtock・オプションの内容

	第1回新株予約権
決議年月日	平成19年5月14日
付与対象者の区分及び人数	取締役 4名 監査役 1名 従業員 66名
ストック・オプション数(注)	普通株式 47,500株
付与日	平成19年5月15日
権利確定条件	新株予約権者は、権利行使時においても、当社又は当社子会社の取締役、監査役及び従業員の地位にあることを要するものとする。ただし、当社が諸般の事情を考慮の上、特例として取締役会で承認した場合はこの限りではない。その他の条件については、「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。
対象勤務期間	対象勤務期間はありません。
権利行使期間	平成21年5月15日から平成26年5月16日まで

(注) 1 株式数に換算しております。

2 当社は、平成20年6月21日付で1株につき50株の株式分割を行っておりますが、当該株式分割による調整後の株式数を記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当事業年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	第1回新株予約権
権利確定前(株)	
前事業年度末	42,500
付与	
失効	2,300
権利確定	
未確定残	40,200

(注) 1 当社の発行したストック・オプションは、権利行使期間到来前のものです。

2 当社は、平成20年6月21日付で1株につき50株の株式分割を行っておりますが、当該株式分割による調整後の株式数を記載しております。

単価情報

	第1回新株予約権
権利行使価格(円)	2,468
行使時平均株価(円)	
公正な評価単価(円)	

(注) 当社は、平成20年6月21日付で1株につき50株の株式分割を行っておりますが、当該株式分割による調整後の権利行使価格を記載しております。

(3) 当事業年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

該当事項はありません。

(4) ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(5) 当事業年度末における本源的価値の合計額及び当事業年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

当事業年度末における本源的価値の合計額

円

なお、本源的価値の算定においては、当事業年度末における株価の終値をもって算定していません。

当事業年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成19年12月31日)	当事業年度 (平成20年12月31日)
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>流動資産</p> <p>一括償却資産 671千円</p> <p>未払事業税 9,643千円</p> <p>その他 1,849千円</p> <p style="text-align: right;">計 12,165千円</p> <p>固定資産</p> <p>一括償却資産 217千円</p> <p>固定資産減損損失 4,377千円</p> <p>その他 39千円</p> <p style="text-align: right;">計 4,634千円</p> <p style="text-align: right;">繰延税金資産合計 16,799千円</p>	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>流動資産</p> <p>一括償却資産 1,128千円</p> <p>未払事業税 6,931千円</p> <p>その他 727千円</p> <p style="text-align: right;">計 8,787千円</p> <p>固定資産</p> <p>一括償却資産 431千円</p> <p>固定資産減損損失 13,558千円</p> <p>その他 7千円</p> <p style="text-align: right;">計 13,996千円</p> <p style="text-align: right;">繰延税金資産合計 22,784千円</p>
<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が、法定実効税率の100分の5以下であるため、当該差異の原因となった主な項目別の内訳の記載を省略しております。</p>	<p>2 同左</p> <p>3 税率変更による繰延税金資産の金額の修正 当事業年度中に増資により資本金が1億円を超過したことに伴い、当事業年度の繰延税金資産の計算に使用した法定実効税率は、前事業年度の42.05%から40.69%に変更されております。 なお、当該税率変更により、繰延税金資産の金額が761千円減少し、法人税等調整額が同額増加しております。</p>

(持分法損益等)

前事業年度(自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)

関連会社が存在しないため、該当事項はありません。

当事業年度(自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)

関連会社が存在しないため、該当事項はありません。

(企業結合等関係)

前事業年度(自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者との取引】

前事業年度(自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)

1 親会社及び法人主要株主等

属性	会社等の名称	住所	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
親会社	GMOインターネット(株)	東京都 渋谷区	12,631,977	インター ネット活 用支援事 業等	(被所有) 直接 59.6	兼任3名	貸借取 引その 他役務 の受入 等	事務所敷金 の預入 (注2(1))	10,175	敷金 保証金	19,295
								ドメイン登録 料の支払 (注2(2))	229,067	営業 未払金	24,283
								寄託資金の 回収 (注2(3))	200,000	-	-
								資金の寄託に よる受取利息 (注2(4))	1,746	-	-
								メディア広告 の販売 (注2(5))	105,914	売掛金	15,657
								コミュニティ サービスの提 供(注2(6))	2,999	売掛金	195

(注) 1 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりませんが、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

- (1) 一般的な取引と同様に同社との建物賃貸借契約に基づき行っております。
- (2) 同社と関連を有しない会社との取引と同様に、取引規模等を総合的に勘案し交渉の上決定しております。
- (3) 資金の寄託の取引金額については、平成19年9月に100,000千円の追加預入れを行っておりますが、期中に300,000千円全額を回収しており、期末現在残高がございませんので、当期中における純増減額を記載しております。当該取引は、平成20年9月16日付で解約しております。
- (4) 資金の寄託資金の寄託による受取利息は、同社との「CMS(Cash Management System)運営委託基本契約」に基づき発生したものであり、当該取引については期間及び市中金利等を勘案して決定しております。
- (5) 同社との広告販売に関する業務委託契約書に基づく取引であり、取引条件に関しては、当社の役務提供の価値と広告収入の成果等を総合的に勘案し、交渉の上決定しております。
- (6) 市場価格を参考にして一般取引条件と同様に決定しております。

2 役員及び個人主要株主等

属性	会社等の名称	住所	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
役員	家入一真	-	-	当社代表取 締役社長	(被所有) 直接 39.6	-	-	不動産賃貸 借契約被債 務保証 (注2)	8,469	-	-

(注) 1 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりません。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

当社は福岡支社建物の賃借料に対して、主要株主兼当社代表取締役社長家入一真より連帯保証を受けております。保証料は支払っておらず、取引金額は年額賃借料を記載しております。なお、当該取引は平成20年3月に終了しております。

3 兄弟会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
親会社の子会社	GMOペイメントゲートウェイ(株)	東京都渋谷区	655,241	クレジットカード決済処理サービス	なし	兼任2名	役務の受入	決済代行サービスの利用 (注2)	-	売掛金	136,611

(注) 1 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりませんが、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

同社と関連を有しない会社との取引と同様に、取引規模等を総合的に勘案し交渉の上決定しております。なお、売掛金に関する取引については、同社に対する販売額はございませんので、取引金額は記載していません。

当事業年度(自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)

1 親会社及び法人主要株主等

属性	会社等の名称	住所	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
親会社	GMOインターネット(株)	東京都渋谷区	1,276,834	インターネット活用支援事業等	(被所有) 直接 57.4	兼任3名	貸借取引その他役務の受入等	事務所敷金の預入 (注2(1))	-	敷金保証金	19,295
								ドメイン登録料の支払 (注2(2))	284,461	営業未払金	25,871
								データセンター利用料の支払(注2(3))	27,784	営業未払金	3,082

(注) 1 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりませんが、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

- (1) 一般的な取引と同様に同社との建物賃貸借契約に基づき行っております。
- (2) 同社と関連を有しない会社との取引と同様に、取引規模等を総合的に勘案し交渉の上決定しております。
- (3) 市場価格を参考にして一般取引条件と同様に決定しております。

2 兄弟会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
親会社の子会社	GMOペイメントゲートウェイ(株)	東京都渋谷区	655,241	クレジットカード決済処理サービス	なし	兼任2名	役務の受入	決済代行サービスの利用 (注2)	-	売掛金	134,815

(注) 1 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりませんが、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

同社と関連を有しない会社との取引と同様に、取引規模等を総合的に勘案し交渉の上決定しております。なお、売掛金に関する取引については、同社に対する販売額はございませんので、取引金額は記載していません。

(1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自平成19年1月1日 至平成19年12月31日)	当事業年度 (自平成20年1月1日 至平成20年12月31日)
1株当たり純資産額	18,468円72銭	534円11銭
1株当たり当期純利益	7,954円22銭	186円86銭
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	186円03銭	186円03銭
	<p>なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在しますが、当社株式は非上場であるため、期中平均株価が把握できませんので記載しておりません。</p> <p>当社は、平成19年3月29日付けで株式1株を100株とする株式分割を実施しております。</p> <p>当該株式分割が前期首に行われたものと仮定した場合の前事業年度の1株当たり情報は以下のとおりであります。</p> <p>1株当たり純資産額 13,228円50銭</p> <p>1株当たり当期純利益金額 6,029円43銭</p> <p>なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。</p>	<p>当社は、平成20年6月21日付けで株式1株を50株とする株式分割を実施しております。</p> <p>当該株式分割が前期首に行われたものと仮定した場合の前事業年度の1株当たり情報は以下のとおりであります。</p> <p>1株当たり純資産額 369円37銭</p> <p>1株当たり当期純利益金額 159円08銭</p> <p>なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在しますが、当社株式は非上場であったため、期中平均株価が把握できませんので記載しておりません。</p>

(注) 算定上の基礎

1 1株当たり純資産額

項目	前事業年度末 (平成19年12月31日)	当事業年度末 (平成20年12月31日)
貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	470,952	707,702
普通株式に係る純資産額(千円)	470,952	707,702
普通株式の発行済株式数(株)	25,500	1,325,000
普通株式の自己株式数(株)		
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(株)	25,500	1,325,000

2 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎

項目	前事業年度 (自平成19年1月1日 至平成19年12月31日)	当事業年度 (自平成20年1月1日 至平成20年12月31日)
1株当たり当期純利益金額		
損益計算書上の当期純利益(千円)	202,832	238,599
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益(千円)	202,832	238,599
普通株式の期中平均株式数(株)	25,500	1,276,913
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(千円)		
普通増加株式数(株)		5,682
(うち新株予約権)	()	(5,682)

希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含まれなかった潜在株式の概要	平成19年5月14日臨時株主総会決議による新株予約権850個 普通株式850株	
--	---	--

(重要な後発事象)

前事業年度 (自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日)	当事業年度 (自 平成20年1月1日 至 平成20年12月31日)								
<p>当社は、平成20年5月28日開催の取締役会決議に基づき、次のように株式分割による新株式を発行しておりません。</p> <p>1 平成20年6月21日をもって普通株式1株につき50株に分割します。</p> <p>(1) 分割により増加する株式数 普通株式 1,249,500株</p> <p>(2) 分割方法 平成20年6月20日最終の株主名簿上の株主をもって、その所有する株式1株を50株とする株式分割をいたします。</p> <p>2 当該株式分割が前期首に行われたと仮定した場合の前事業年度における1株当たり情報及び当期首に行われたと仮定した場合の当事業年度における1株当たり情報は、それぞれ以下のとおりとなります。</p>	<p>該当事項はありません。</p>								
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="113 772 427 817">前事業年度</th> <th data-bbox="427 772 740 817">当事業年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="113 817 427 884">1株当たり純資産額 264円57銭</td> <td data-bbox="427 817 740 884">1株当たり純資産額 369円37銭</td> </tr> <tr> <td data-bbox="113 884 427 952">1株当たり当期純利益 120円59銭</td> <td data-bbox="427 884 740 952">1株当たり当期純利益 159円08銭</td> </tr> <tr> <td data-bbox="113 952 427 1216"> <p>なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。</p> </td> <td data-bbox="427 952 740 1216"> <p>なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在しますが、当社株式は非上場であるため、期中平均株価が把握できませんので記載しておりません。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	前事業年度	当事業年度	1株当たり純資産額 264円57銭	1株当たり純資産額 369円37銭	1株当たり当期純利益 120円59銭	1株当たり当期純利益 159円08銭	<p>なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。</p>	<p>なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在しますが、当社株式は非上場であるため、期中平均株価が把握できませんので記載しておりません。</p>	
前事業年度	当事業年度								
1株当たり純資産額 264円57銭	1株当たり純資産額 369円37銭								
1株当たり当期純利益 120円59銭	1株当たり当期純利益 159円08銭								
<p>なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。</p>	<p>なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在しますが、当社株式は非上場であるため、期中平均株価が把握できませんので記載しておりません。</p>								

【附属明細表】

【有価証券明細表】

該当事項はありません。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	6,358	-	-	6,358	2,187	913	4,170
工具器具及び備品	35,125	31,568	6,058 (5,429)	60,634	28,428	15,404	32,206
有形固定資産計	41,483	31,568	6,058 (5,429)	66,992	30,615	16,318	36,377
無形固定資産							
のれん	9,523	-	-	9,523	7,619	1,904	1,904
ソフトウェア	98,084	27,012	14,294 (14,294)	110,803	50,701	20,076	60,101
ソフトウェア仮勘定	9,368	29,693	30,824 (4,965)	8,237	-	-	8,237
電話加入権	624	-	-	624	-	-	624
無形固定資産計	117,600	56,706	45,118 (19,260)	129,188	58,320	21,981	70,867

(注) 1 当期増加額のうち、主なものは次のとおりであります。

工具器具備品	既存サービスサーバー増設代	30,822千円
ソフトウェア	既存サービス機能追加等当期開発完了に伴うソフト ウェア仮勘定振替額	25,858千円
ソフトウェア仮勘定	当期自社開発投資額	29,693千円

2 当期減少額のうち、主なものは次のとおりであります。

なお、「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

工具器具備品	JugemKeyサービスの減損損失の計上による減少額	5,429千円
ソフトウェア	JugemKeyサービスの減損損失の計上による減少額	14,294千円
ソフトウェア仮勘定	前期及び当期開発投資のうち当期開発完了に伴うソフ トウェア振替額	25,858千円
	JugemKeyサービスの減損損失の計上による減少額	4,965千円

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【引当金明細表】

該当事項はありません。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	498
普通預金	1,283,216
合計	1,283,715

売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
GMOペイメントゲートウェイ株式会社	134,815
三菱UFJニコス株式会社	55,656
株式会社電算システム	21,209
株式会社JCB	18,313
GMOインターネット株式会社	12,405
その他	18,160
合計	260,560

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

期首残高(千円)	当期発生高(千円)	当期回収高(千円)	当期末残高(千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	$\frac{(A)+(D)}{2}$ $\frac{(B)}{366}$
231,154	1,871,685	1,842,279	260,560	87.6	48.1

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

貯蔵品

区分	金額(千円)
会社案内	3,036
販促用品	228
その他	112
合計	3,377

営業未払金

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
GMOインターネット株式会社	28,953
株式会社日本レジストリサービス	15,581
GMOホスティング&セキュリティ株式会社	4,059
日本エフ・セキュア株式会社	3,010
さくらインターネット株式会社	510
その他	754
合計	52,870

未払金

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
GMOペイメントゲートウェイ株式会社	6,358
新光証券株式会社	5,250
三菱UFJ信託銀行株式会社	4,854
株式会社ファンコミュニケーションズ	4,500
監査法人トーマツ	2,527
その他	24,813
合計	48,304

未払法人税等

区分	金額(千円)
未払法人税等	83,000
未払事業税等	17,295
合計	100,295

前受金

サービス別	金額(千円)
ロリポップ! レンタルサーバー	410,675
Color Me Shop! pro	111,882
ヘテムル	69,753
ムームードメイン	32,385
プチ・ホームページサービス	8,360
その他	4,821
合計	637,878

(注) 相手先ではなくサービス別に記載しております。

預り金

区分	金額(千円)
チカッパ! レンタルサーバー	67,227
おさいぼ!	14,474
カラメル	10,264
従業員等預り金	8,760
その他	22
合計	100,749

(注) 「従業員等預り金」以外は、相手先ではなくサービス別に記載しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヶ月以内
基準日	12月31日
株券の種類	100株券、1,000株券、10,000株券
剰余金の配当の基準日	6月30日 12月31日
1単元の株式数	100株
株式の名義書換え	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	無料
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
買取手数料	株式の売買委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告は、電子公告により行う。 ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行う。 なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは、次のとおりです。 http://ir.paperboy.co.jp/announcement/
株主に対する特典	なし

(注) 1 当会社の単元未満株式を有する株主は、当社定款の定めにより、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
 - (2) 取得請求権付株式の取得を請求する権利
 - (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式又は募集新株予約権の割当を受ける権利
- 2 「株式等の取引に係る決済の合理化を図るための社債等の振替に関する法律等の一部を改正する法律」(平成16年法律第88号)が平成21年1月5日に施行されたことに伴い、株券が電子化されております。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券届出書及びその添付書類

有償一般募集増資(ブックビルディング方式による募集)及び株式売出し(ブックビルディング方式による売出し)に係る有価証券届出書を平成20年11月18日関東財務局長に提出

(2) 有価証券届出書の訂正届出書

上記(1)に係る訂正届出書を平成20年12月3日及び平成20年12月11日関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成20年11月10日

株式会社 paper boy & co.

取締役会 御中

監査法人 トーマツ

指定社員
業務執行社員

公認会計士 猪瀬 忠彦

指定社員
業務執行社員

公認会計士 吉村 孝郎

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社 paper boy & co. の平成19年1月1日から平成19年12月31日までの第6期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社 paper boy & co. の平成19年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券届出書提出会社)が別途保管しております。

独立監査人の監査報告書

平成21年 3月18日

株式会社 paper boy & co.

取締役会 御中

監査法人 トーマツ

指定社員
業務執行社員

公認会計士 猪瀬 忠彦

指定社員
業務執行社員

公認会計士 吉村 孝郎

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社 paper boy & co. の平成20年1月1日から平成20年12月31日までの第7期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社 paper boy & co. の平成20年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。